《ごあいさつ》
このたびは、カワイ 電子ピアノes2をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

es2の性能をフルに発揮させるとともに、いつまでも末永くご愛用いただくために、ご使用前に必ず本書をお読みくださいますようお願いいたします。

KAWAI es2

DIGITAL PIANO

取扱説明書

●同梱品

- □ es2本体
- □ 専用スタンド
- □ 電源コード
- □ フットペダル F-1r
- □ 譜面立て
- □ 取扱説明書（本書）
- □ 保証書
- □ ご愛用者カード
- □ アフターサービスと音楽教室のご案内
- □ Pfunピアノ曲集
- □ 楽譜集のご案内
- □ 楽譜集の払込取扱票
- □ スタンド組立説明書

（すべて数量1）

目 次

安全上のご注意 **2**

準　備 **4**

1）付属品（お確かめください） 4
2）es2の特長 5
3）各部の名称と働き 6
4）演奏前の準備 8

演奏する **10**

1）音色を選ぶ 10
2）2つの音色を重ねる［デュアル］ 12
3）効果を加える 13
　音に拡がりを与える［コーラス］ 13
　音に残響を加える［リバーブ］ 13
　音質を切り替える［イコライザー］ 14
4）音色デモ曲を聴く 15
5）Pfunピアノ曲 16
　Pfunピアノ曲を聴く 16
　ミュートして合奏する 17
　鍵盤と伴奏の音量バランスを調節する 18
　指定したポイントから再生する 19
　テンポを変える 19
6）コンサートマジック 20
　曲を選ぶ 20
　演奏する 20
　聴く 21
7）タッチカーブを切り替える 22
8）キー（調）を変える［トランスポーズ］ 23
9）リズム/メトロノームを鳴らす 24
　テンポを調節する 24
　拍子を選ぶ 25
　音量を調節する 25

演奏の録音・再生 **26**

1）録音する 26
　パート1に録音する 26
　パート2に録音する 27
　Pfunピアノ曲をバックに演奏して録音する 28
2）再生する 28
　パートをミュートする 28
3）録音済みのパートを消去する 29
　すべての曲を消去する 29

各種設定［ファンクション］ **30**

1）設定の種類 30
2）音の明るさを変える［ブリリアンス］ 30
3）音程を微調整する［チューニング］ 31
4）音色のニュアンスを変える［ボイシング］ 32
5）ダンパーペダルの共鳴効果を変える
　［ペダルエフェクト］ 33
6）音律を変える 34
7）設定を記憶させる［メモリー・バックアップ］ 35
8）MIDI機能を使う 36
　MIDIについて 36
　es2のMIDI機能 37
　MIDI送受信チャンネルの設定 38
　プログラムナンバーを送信する 39
　ローカルコントロール オン/オフの設定 40
　プログラムナンバー送信 オン/オフの設定 41
　マルチティンバー・モード オン/オフの設定 43
　チャンネルミュートの設定 44

付　録 **45**

1）外部機器と接続する 45
2）主な仕様 47
3）別売品のご紹介 47
4）MIDIインプリメンテーションチャート 48
5）es2を組み立てる 49

安全上のご注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しくお使いください。
ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので必ず守ってください。

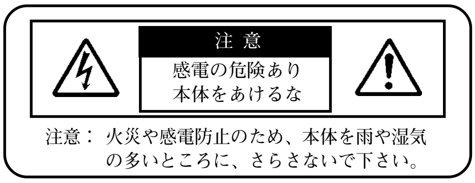
警告表示と注意表示の意味

⚠ 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容が記載されています。
⚠ 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害の発生が想定される内容が記載されています。

絵表示の例

△	△記号は危険、警告、注意を示す内容があることを告げるものです。 左図の場合は「指を挟まないよう注意」が描かれています。
⦸	⦸記号は禁止を示す内容があることを告げるものです。 左図の場合は「分解禁止」が描かれています。
●	●記号は強制を示す内容があることを告げるものです。 左図の場合は「電源プラグをコンセントから抜く」が描かれています。

製品本体に表示されているマークの意味



⚠ このマークは、感電の危険があることを警告しています。

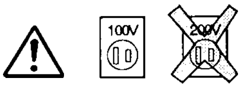
⚠ このマークは、注意喚起シンボルです。取扱説明書等に、一般的な注意、警告の説明が記載されていることを表しています。

⚠ 警告

電源は、必ずAC100Vを使う

- 電圧の異なる電源を使用しない。
- 火災や感電の恐れがあります。

100V以外禁止



水に濡れた手で、電源プラグを抜き差ししない

- 感電の原因になります。

濡れた手で触らない

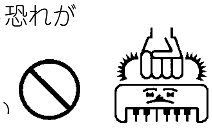
本機を水で濡らさない

- 本機に水がかかると、漏電による火災や感電の原因になります。

本機の上に乗ったり、よりかかったり、無理な力を加えない

- 破損または変形したり、倒れる恐れがあり、大変危険です。

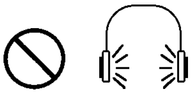
上に乗らない
よりかからない



ヘッドホンを、大音量で長時間使用しない

- 聴力低下の原因になる恐れがあります。

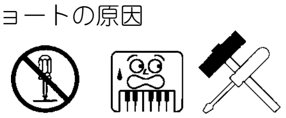
長時間使用禁止



本機を分解、修理、改造しない

- 故障、火災、感電、ショートの原因になります。

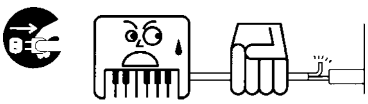
分解禁止



電源プラグを抜くときは、必ずプラグ部分を持って抜く

- コードを引っ張るとコードが破損し、火災、感電、ショートの原因になります。

プラグ部分を持つ



長時間使用しないとき、または落雷の恐れがあるときは、必ず電源プラグを抜く

- 落雷時に火災になる恐れがあります。

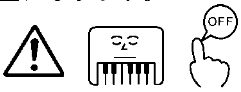
プラグを抜く

⚠注意

本機を次のような所では使用しない
・窓際など直射日光の当たる場所
・暖房器具のそばなど極端に温度の高い場所
・戸外など極端に温度の高いまたは低い場所
・極端に湿度の高い場所
・砂やホコリの多い場所
・振動の多い場所
・不安定な場所
●故障の原因になります

使用禁止

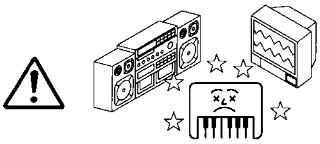
コード類は、各機器の電源を切ってから接続する
●本機や接続機器の故障の原因になります。

電源を切る 

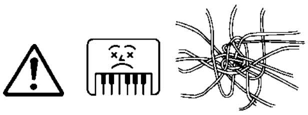
本機の内部に異物を入れないようにする
●水、針、ヘアピン等が入ると、故障やショートの原因になります。

異物を入れない

テレビやラジオなどの電気機器の近くに置かない
●本機が雑音を発する恐れがあります。
●本機が雑音を発したら、他の電気機器から十分に離すか、他のコンセントをご利用ください。

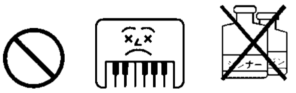


電源コード、接続コード類はからまないように接続する
●コードが破損し、火災、感電、ショートの原因になります。

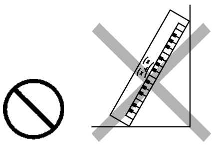
からまないようにする 

本体とスタンドの接続および分離は、電源を切ってから行う
●本体やスタンドの故障の原因になります。

ベンジンやシンナーで本機を拭かない
●変色や、変形の原因になります。
●清掃するときは、柔らかい布をぬるま湯につけて、よく絞ってから拭いてください。

ベンジン／シンナー禁止 

本機はハンマーアクション鍵盤を搭載しているため、特に次の点に注意してください。
●本機を長期間立てたままにしたり、通常の演奏では考えられない無理な力を鍵盤にかけると、故障の原因になります。



●ヘッドホンを使用したり、音量を下げて演奏すると、構造上打鍵音(メカニズム音)が若干聞こえますが異常ではありません。ご了承ください。

●コンセントの抜き差しが容易にできるように、本機を電源コンセントの近くに設置してください。

●本機の電源スイッチをオフにしていても、コンセントを差し込んだ状態であれば、本機に電源がつながっています。感電にご注意ください。

●運搬の際は、なるべく2人以上で運んでください。

●本体とスタンドを分離する場合は、本体とスタンドを接続しているコネクタを、忘れずに外してください。

■ 保証書について
●本製品をお買い求めの際、販売店で必ず保証書の手続きを行ってください。保証書に販売店の印やお買い上げ日の記入がない場合は、保証期間中でも修理が有償になることがあります。
●保証書は、本書と共に大切に保管してください。

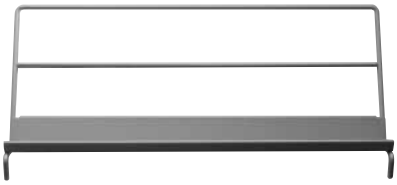
■ 修理について
●万一異常があるときはすぐに電源スイッチを切り、本機の電源プラグをコンセントから抜いて、購入店または弊社へご連絡ください。

1）付属品（お確かめください）

● 電源コード

● フットペダル F-1r

● 譜面立て



● 取扱説明書（本書）

● 保証書

● ご愛用者カード

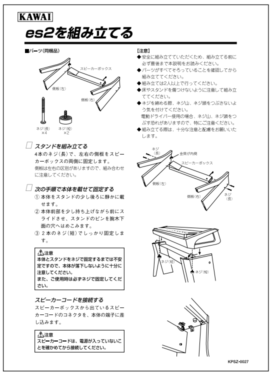
● アフターサービスと音楽教室のご案内

● Pfun（ピーファン）ピアノ曲集

● 楽譜集 のご案内

● 楽譜集の払込取扱票

● スタンド組立説明書



2）es2の特長

本格的なピアノタッチを実現

演奏性を重視した「非対称音域別ハンマーウェイト」を採用することで、手応えが低音側から高音側まで滑らかに変化する演奏性を実現。ばねを一切使わない鍵盤機構で、グランドピアノのタッチ感をリアルに再現する「アドバンスト・ハンマー・アクションⅢ」を搭載しています。

カワイフルコンサートピアノEXの響板や弦の響きを忠実に再現

世界の舞台で認められたフルコンサートピアノEXをサンプリングしたリアルで立体的な音を、いつでも気軽に楽しめます。
さらにピアノのハンマーの硬度をシミュレートしたボイシング機能や、ダンパーペダルの共鳴音を付加するペダルエフェクト機能が、シビアな要求に応えます。

厳選された40種類の多彩な音色

グランドピアノ音色をはじめ、オルガンやストリングス、ハープシコードなど34種類の標準音色と、6種類のモアピアノ音色を内蔵しており、曲想に合わせて様々な音色をお楽しみいただけます。
モアピアノ音色は、ピアノ音色と他の音色を組み合わせた新しい音色です。

5スピーカーシステムによる迫力のピアノサウンド

場所を選ばないコンパクトなボディに、ハイクオリティな2ウェイスピーカーを左右にバランス良く配置しました。さらにスタンド側には低音専用スピーカーを搭載しており、臨場感あふれるサウンドをお楽しみいただけます。

本体のみ分離して演奏可能

スタンドから切り離して本体のみで演奏することができるので、気軽なパーティーやコンサートなどにes2本体を持ち出して演奏することができます。もちろん家に帰りスタンドと組み合わせれば、5スピーカーの迫力あるサウンドが甦ります。

手軽で贅沢なデジタルピアノならではの再現性

弾き手の指の力や好みに合わせて6種類の中からタッチを選択できるタッチカーブセレクト機能や、ピアノで一般的な平均律を始めバロック時代に用いれられた古典音律など様々な響きを楽しめる音律設定機能を搭載しています。

音の世界が広がる多彩なエフェクト

音に心地よい拡がりを与えるコーラス、深みのある美しい響きを作り出す3種類のリバーブ、シチュエーションに合わせて音質を選べる6種類のイコライザーが音楽の可能性をより高めます。

本格的な演奏を楽しめるPfun（ピーファン）ピアノ曲

それぞれの音色の特長を生かしたフレーズデモを、多彩なジャンルでお楽しみいただけます。
Pfunピアノ曲では、ピアノパートまたは伴奏音をミュート（消音）して、合奏することもできます。さらに、別売の「Pfunピアノ曲集」の曲データをes2に追加して、Pfunピアノ曲として楽しむことができます。

ヘッドホン演奏も大切に考えた充実の仕様

長時間ヘッドホンを使用したときに感じる耳への圧迫感を、「音の拡がり効果」機能が解消します。ヘッドホン使用時でも快適に演奏を楽しむことができます。

カワイ独自のコンサートマジック機能

1つの鍵盤を押していくだけで曲を演奏できるユニークな機能です。初心者の方や小さなお子様まで気軽に音楽をお楽しみいただけます。押すタイミングや強弱により音楽的な表現も可能です。
コンサートマジックの曲は、デモ演奏として鑑賞することもできます。

正確なテンポを刻むリズム/メトロノーム

5種類のメトロノームと、8種類のリズムを内蔵しています。レッスンだけでなく、演奏を楽しむためにもお使いいただけます。

伴奏やキーの上げ下げに便利なトランスポーズ機能

弾き方を変えずに、歌いやすいキーに移調したり、他の楽器とのアンサンブルでキーを合わせたりすることが、簡単な操作で行えます。
音程を微調整できるチューニング機能も内蔵しています。

演奏を録音してチェックできるレコーダー

演奏を2パートに分けて。4曲まで録音することができます。左手と右手のパートをそれぞれ別に録音したり、演奏を重ねて一人で連弾を楽しんだり使い方は様々です。

音楽の可能性を広げるMIDI（ミディ）とコンピュータインターフェース

他のMIDI機器と接続して演奏情報やパネル情報をやりとりできるMIDI端子を装備しています。
また、パソコンとの接続を考慮しコンピュータインターフェースも装備しています。

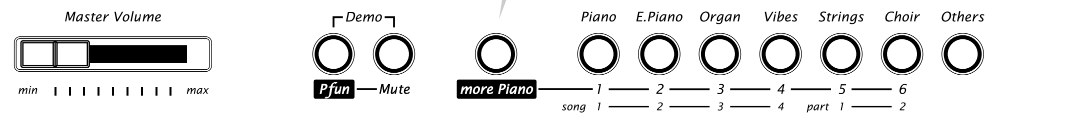
3）各部の名称と働き

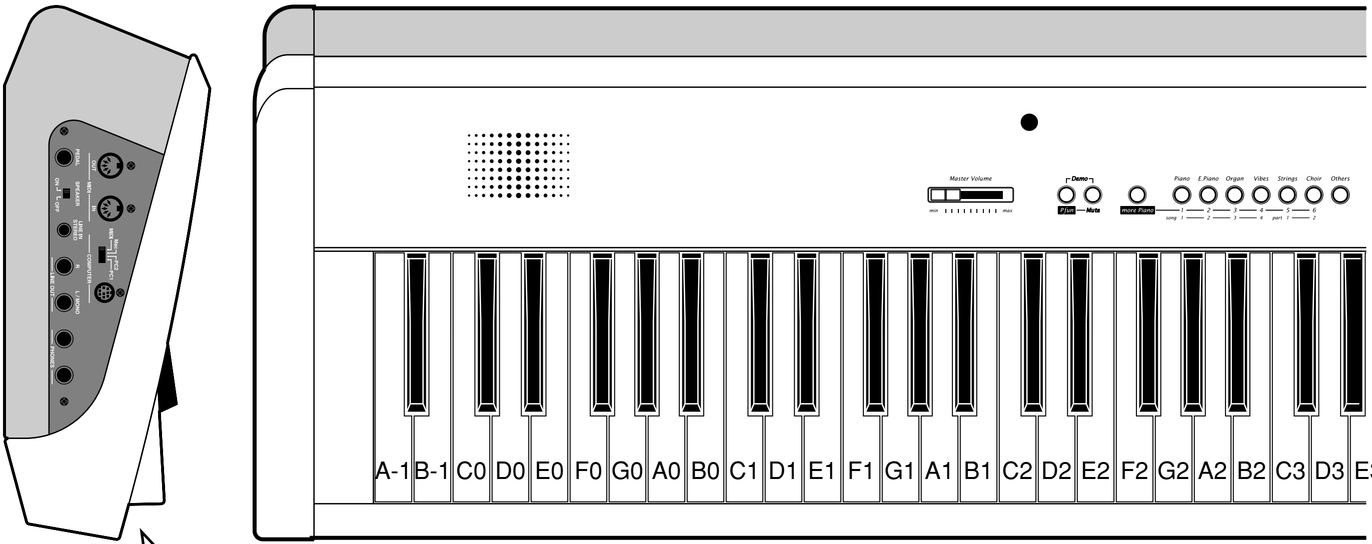
Master Volume（マスターボリューム）
内蔵スピーカーやヘッドフォンの音量を調節できます。max（マックス）側にするほど音が大きくなります。
（→9ページ）

Demo（デモ）ボタン
音色デモ曲やPfun（ピーファン）ピアノ曲を再生することができます。
（→15、16ページ）
コンサートマジックでも使います。
（→20ページ）

morePiano（モアピアノ）ボタン
モアピアノ音色を選ぶことができるようになります。
（→11ページ）

音色ボタン
標準音色やモアピアノ音色を選ぶことができます。
2つ同時に押すとデュアル音色になります。
（→10ページ）



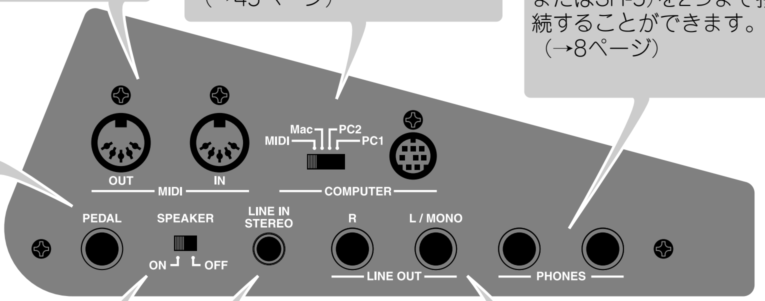


MIDI（ミディ）端子
他のMIDI機器と接続して、演奏情報などをやりとりすることができます。
（→36ページ）

COMPUTER（コンピュータ）
市販の専用ケーブルを接続することで、直接コンピュータとMIDIデータをやりとりすることができます。
（→45ページ）

PHONES（フォーン）端子
別売のヘッドホン（SH-2またはSH-5）を2つまで接続することができます。
（→8ページ）

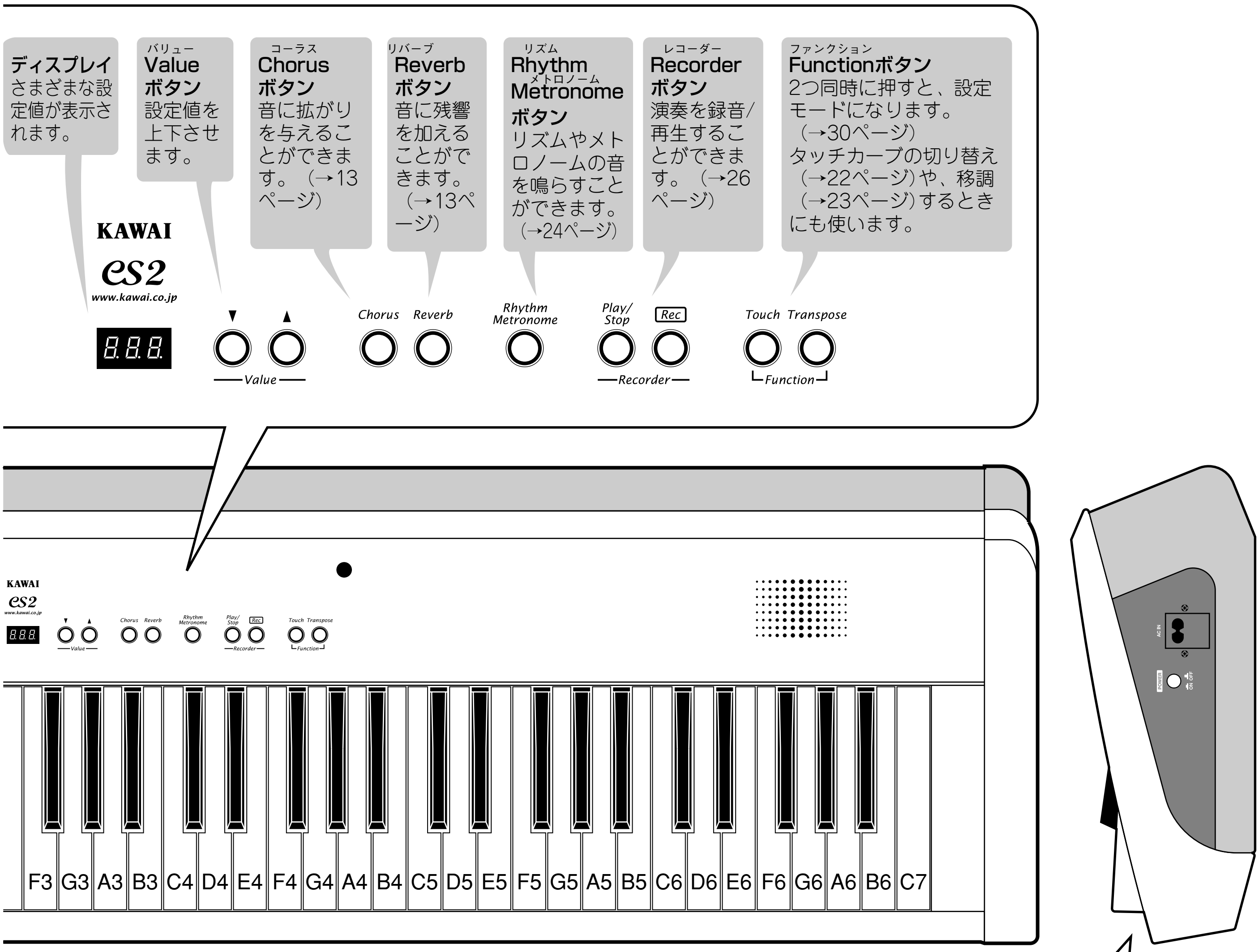
PEDAL（ペダル）端子
付属や別売のペダルを接続して、ダンパーペダル効果を得ることができます。（→8ページ）

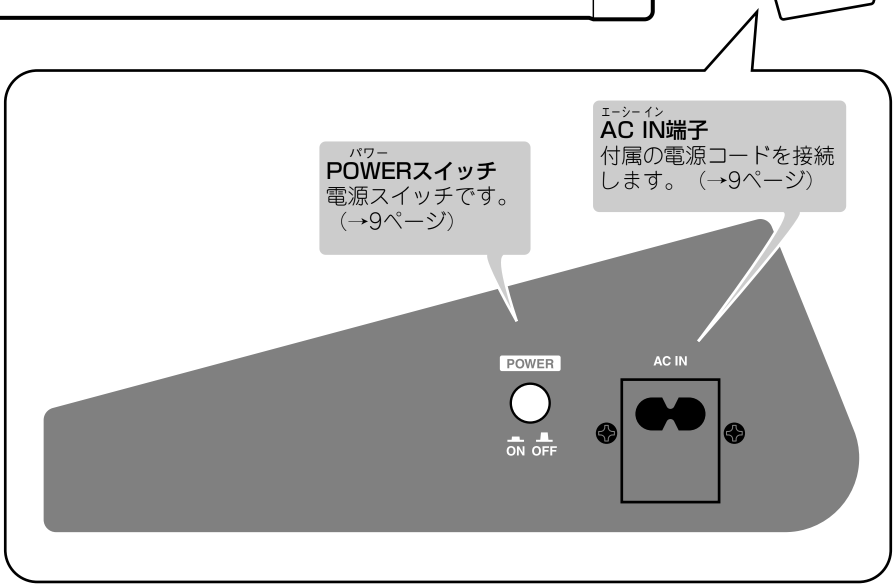


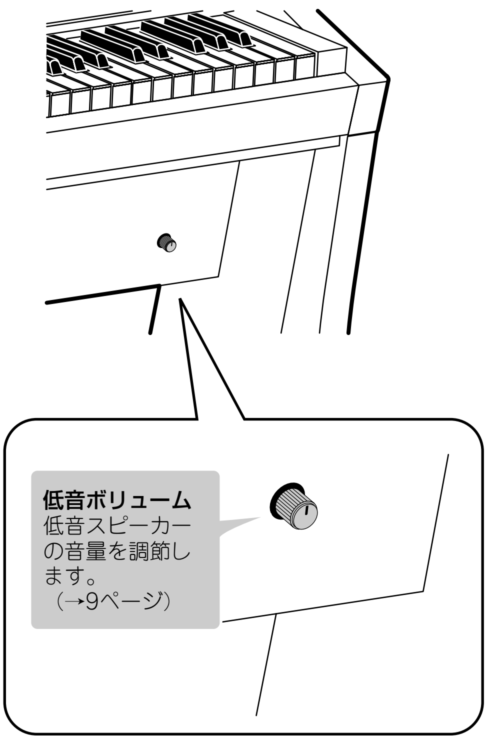
SPEAKER（スピーカー）スイッチ
OFF側にすると、スピーカーの音を消すことができます。
（→9ページ）

LINE IN STEREO（ライン イン ステレオ）端子
他の電子楽器やオーディオ機器を接続して、es2のスピーカーで鳴らすことができます。
（→45ページ）

LINE OUT（ライン アウト）端子
オーディオ機器に接続して録音したり、アンプ内蔵スピーカーなどに接続して大きな音で鳴らすことができます。（→45ページ）


ディスプレイ
さまざまな設定値が表示されます。
Valueボタン
設定値を上下させます。
Chorusボタン
音に拡がりを与えることができます。（→13ページ）
Reverbボタン
音に残響を加えることができます。（→13ページ）
Rhythm Metronomeボタン
リズムやメトロノームの音を鳴らすことができます。（→24ページ）
Recorderボタン
演奏を録音/再生することができます。（→26ページ）
Functionボタン
2つ同時に押すと、設定モードになります。（→30ページ）
タッチカーブの切り替え（→22ページ）や、移調（→23ページ）するときにも使います。
KAWAI
es2
www.kawai.co.jp
888
Value
Chorus
Reverb
Rhythm Metronome
Play/Stop
Rec
Recorder
Touch
Transpose
Function
F3 G3 A3 B3 C4 D4 E4 F4 G4 A4 B4 C5 D5 E5 F5 G5 A5 B5 C6 D6 E6 F6 G6 A6 B6 C7

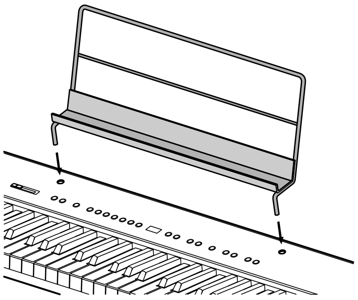

POWERスイッチ
電源スイッチです。（→9ページ）
AC IN端子
付属の電源コードを接続します。（→9ページ）
POWER
ON OFF
AC IN


低音ボリューム
低音スピーカーの音量を調節します。（→9ページ）

4）演奏前の準備

譜面立てを立てる

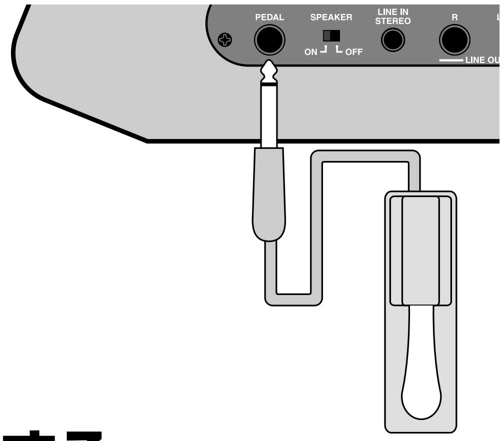
es2本体上部の穴に差し込みます。



フットペダルを接続する

付属のフットペダルF-1rを、PEDAL(ペダル)端子に接続します。
付属のフットペダルはダンパーペダルです。

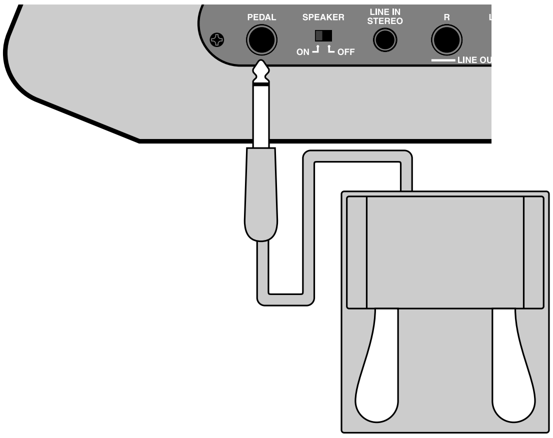
ダンパーペダルとは
鍵盤から指を離しても、ダンパーペダルを踏んでいる間は弾いた音が長く響きます。



別売のフットペダルを接続する

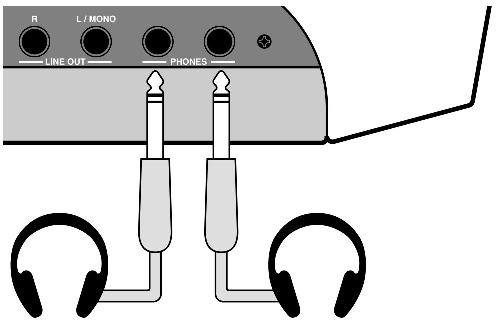
別売のフットペダルF-2rをPEDAL(ペダル)端子に接続します。
F-2rは、ダンパーペダルとソフトペダルの2本ペダルです

ソフトペダルとは
ソフトペダルを踏んだあとに弾いた音の音量がわずかに下がると同時に、音の響きが柔らかくなります。



別売のヘッドホンを接続する

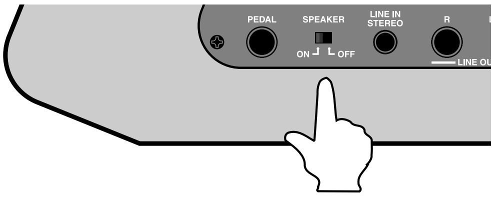
別売のヘッドホン(SH-2またはSH-5)をPHONES(フォーンズ)端子に接続します。
ヘッドホンは2本まで接続できます。



スピーカー出力を入/切する

SPEAKERスイッチを切り替えます。
ON側にするとes2のスピーカーから音が出ます。

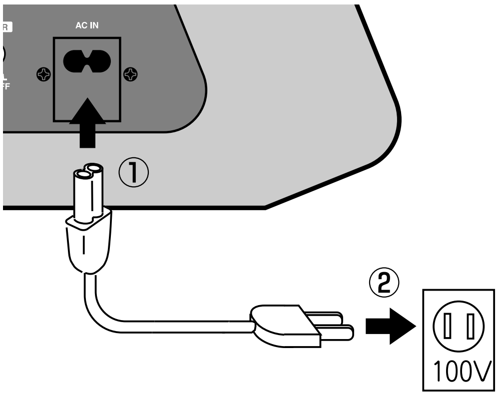
ヘッドホンを接続した場合は、SPEAKERスイッチのON/OFFにかかわらずes2のスピーカーから音は出ません。



音を鳴らす

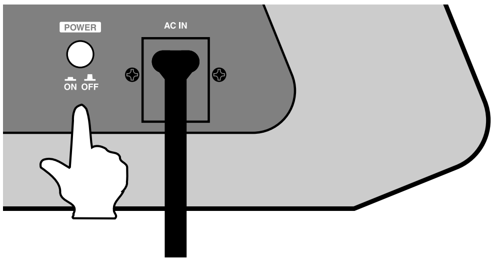
1 電源コードの接続

付属の電源コードをes2本体のAC IN端子に差し込み、次にコンセント（AC100Ｖ）に差し込みます。



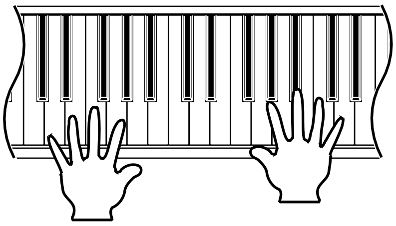
2 電源を入れる

POWERスイッチを押します。
音色ボタンが点灯します。



3 音を出す

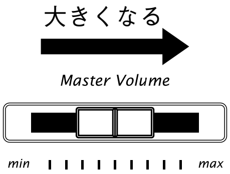
Master Volumeを中央付近にセットし、鍵盤を弾いてみましょう。
音が出ます。



音量を調節する

1 音量の調節

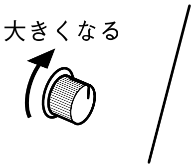
Master Volumeを左右に動かしてお好みの音量にします。



2 低音スピーカー音量の調節

スタンド右前部の低音ボリュームを左右に回して調節します。

ヘッドホン使用時は機能しません。



1）音色を選ぶ

ピアノ音色をはじめとした34種類の標準音色と6種類のモアピアノ音色があります。
モアピアノ音色は、ピアノ音色と他の音色を組み合わせた新しい音色です。

標準音色を選ぶ

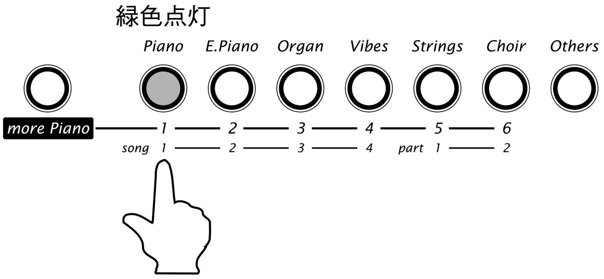
■ 12種類の音色の中から選ぶ場合

音色ボタン	表音色（赤色点灯）	裏音色（緑色点灯）
Piano	コンサート グランド	モダン ピアノ
E.Piano	クラシック エレクトリック ピアノ	モダン エレクトリック ピアノ
Organ	ジャズ オルガン	チャーチ オルガン
Vibes	ビブラホン	ハープシコード
Strings	ストリングス	ストリングス パッド
Choir	クワイヤー	ニューエイジ

音色ボタンを押す

6つの音色ボタンに、表音色と裏音色が各2種類ずつ割り当てられています。
音色ボタンを押して表音色を選ぶとボタンが赤色に点灯し、もう1回押して裏音色を選ぶとボタンが緑色に点灯します。

例: モダン ピアノを選ぶ



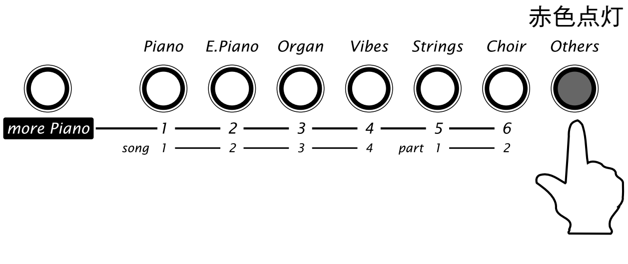
■ その他の22音色の中から選ぶ場合

No.	音色
1	メロー グランド
2	ロック ピアノ
3	60’s エレクトリック ピアノ
4	レジェンド エレクトリック ピアノ
5	モダン エレクトリック ピアノ 2
6	モダン ビブラホン
7	ハープシコード オクターブ
8	ビューティフル ストリングス
9	ウォーム ストリングス
10	シンセ ストリングス
11	アコースティック ベース

No.	音色
12	フィンガー ベース
13	エレクトリック ベース
14	ピック ベース
15	フレットレス ベース
16	スラップ ベース
17	シンセ ベース
18	クラビ ベース
19	スタンダード ドラム キット 1
20	スタンダード ドラム キット 2
21	ルーム ドラム キット
22	アナログ ドラム キット

1 Others（アザーズ）ボタンを押す

Othersボタンが赤色に点灯します。



2 音色を選ぶ

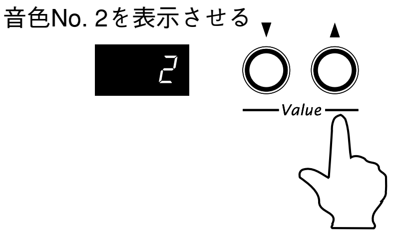
Valueボタンを押して選びます。

選んだ1〜22いずれかの番号が、ディスプレイに表示されます。

または、Othersボタンを繰り返し押すことによって音色を変えることもできます。

注）リズム/メトロノーム（24ページ参照）など、他の機能がディスプレイに表示されているときに音色を変える場合は、Othersボタンを繰り返し押してください。

例: 音色No. 2のロック ピアノを選ぶ



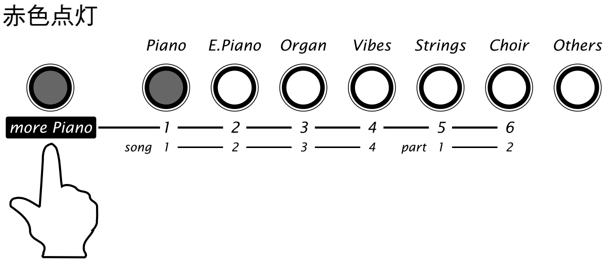
モアピアノ音色を選ぶ

■ 6種類のモアピアノ音色の中から選ぶ

音色ボタン	音色名称	特徴	お薦めの曲
Piano	ピアノ ストリングス 1	ピアノに、やわらかいストリングスを重ねた暖かい音色	バラードなどのしっとりした曲に
E.Piano	ピアノ ストリングス 2	ピアノに、シンセ ストリングスとギターを重ねた深みのある音色。	少しシリアスな曲に
Organ	ピアノ ボイス	ピアノに、ハスキー ボイスを重ねた幻想的な音色	癒し系のミュージックに
Vibes	ピアノ ブラス	ピアノに、シンセ ブラスを重ねた厚みのある音色	80年代のロック バラードに
Strings	エレピ ストリングス	エレクトリック ピアノに、やわらかいストリングスを重ねた拡がりのある音色	バラードにも、ダンス ミュージックにも
Choir	エレピ ウィンド	エレクトリック ピアノに、ウィンドシンセを重ねた歯切れのいい音色	ちょっとメルヘンチックな曲に

1 more Pianoボタンを押す

more Pianoボタンが赤色に点灯します。

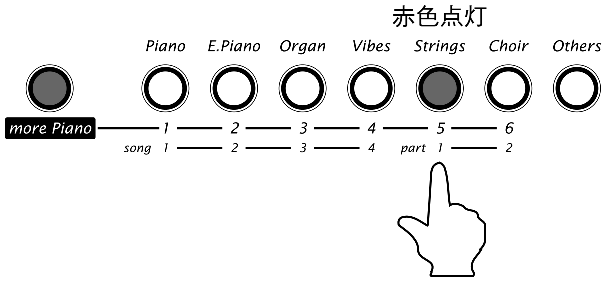


2 音色を選ぶ

6つの音色ボタンのいずれかを押して選びます。

音色ボタンが赤色に点灯します。

例: エレピ ストリングスを選ぶ



2）2つの音色を重ねる［デュアル］

34種類の標準音色の中から2つの音色を重ね合わせて、厚みのある音で演奏することができます。
・モアピアノ音色を組み合わせることはできません。
・同一ボタンの音色を組み合わせることはできません。

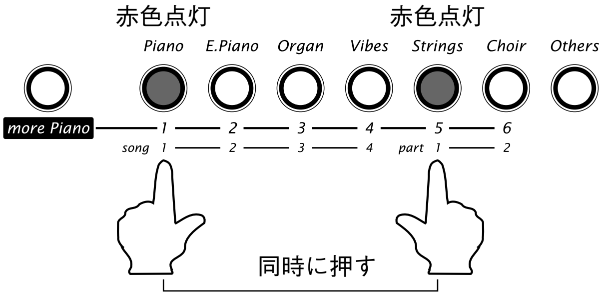
■ 次の2通り（いずれか）の方法で音色を組み合わせることができます。

・各ボタンにあらかじめ音色を割り当てておき（裏音色やOthers（アザーズ）ボタンの音色を選ぶこともできる）、次に2つのボタンを同時に押す。
・組み合わせたい音色のうちの片方をまず選び、その音色ボタンを押しながら、もう一方の音色ボタンを何回か繰り返し押す。

例：2つのボタンを同時に押す

【コンサートグランド（Piano（ピアノ）ボタンの表音色）とストリングス（Strings（ストリングス）ボタンの表音色）を組み合わせる】

PianoボタンとStringsボタンを同時に押します。
両方のボタンが赤色に点灯します。



3）効果を加える

効果（エフェクト）を加えて音の表情を変えることができます。
コーラス、リバーブ、イコライザーの3つのエフェクトがあります。

音に拡がりを与える[コーラス]

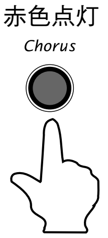
コーラスは、ピッチに揺らぎを持つ音を元の音に加えることにより音に拡がりを与える効果です。

Chorus（コーラス）ボタンを押す

Chorusボタンが赤色に点灯し、コーラスがオンになります。

もう1回押すと、コーラスがオフになります。

・メモリー·バックアップ機能（35ページ参照）を使って、コーラスのオン/オフを音色ごとに記憶させておくことができます。



音に残響を加える[リバーブ]

リバーブは、音に残響を加えて臨場感を与える効果です。3種類の中から好みのリバーブを選ぶことができます。

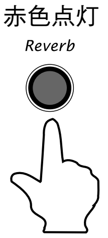
種　類	ディスプレイ表示	特徴	残響音
ルーム	roo	部屋で弾いているような響きです。	短い
ステージ	StG	ステージで弾いているような響きです。	↕
ホール	HAL	ホールで弾いているような響きです。	長い

1 *リバーブをオンにする*

Reverb（リバーブ）ボタンを押します。

Reverbボタンが赤色に点灯し、リバーブがオンになります。

・再度Reverbボタンを押すと、Reverbボタンが消灯してリバーブが解除されます。



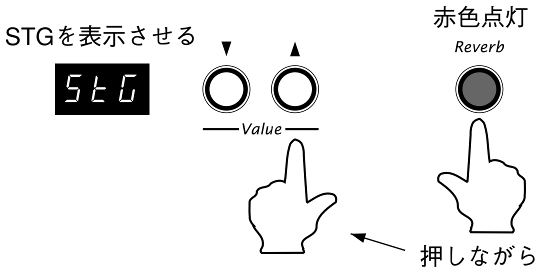
2 *リバーブの種類を選ぶ*

Reverbボタンを押しながら、Value（バリュー）ボタンを押して選びます。

選んだリバーブの種類が、ディスプレイに表示されます。

・メモリー·バックアップ機能（35ページ参照）を使って、リバーブのオン/オフと種類を音色ごとに記憶させておくことができます。

例: ステージを選ぶ



音質を切り替える[イコライザー]

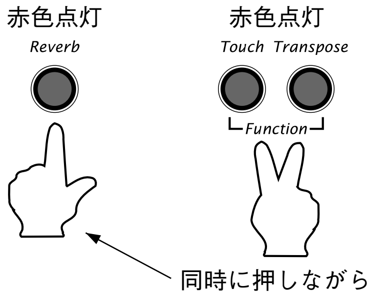
イコライザーは、音質を変える効果です。3種類の中から好みの音質を選ぶことができます。
ヘッドホンの接続も考慮して選択してください。

種　類	モード1	モード2	モード3
ディスプレイ表示	E9 ←交互→ 1	E9 ←交互→ 2	E9 ←交互→ 3
ヘッドホンを接続しない場合	es2を壁から離れた場所に設置するときや、本機の後ろで聴く人がいるときにお薦めします。また、LINE OUT端子に外部スピーカーやPAを接続して、外部機器側で鳴らすときにお薦めします。	壁の近くに設置するときにお薦めします。	専用スタンドからes2本体を外して演奏するときにお薦めします。
ヘッドホンを接続する場合	ヘッドホンをお使いのときにお薦めします。音の圧迫感を軽減するヘッドホン用拡がり効果がかかります。	ヘッドホンの高音が足りないときにお薦めします。ヘッドホン用拡がり効果に加え、高音強調効果がかかります。	ヘッドホンへの効果がかかりません

1 イコライザーの設定準備

Functionボタン(Touchボタンと Transposeボタン)を押しながら、Reverbボタンを押します。

FunctionボタンとReverbボタンが赤色に点灯し、イコライザーの設定が可能になります。



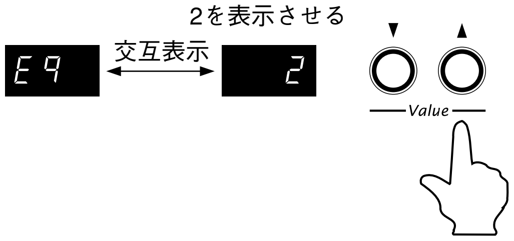
2 イコライザーの種類を選ぶ

Valueボタンを押して選びます。

選んだイコライザーの種類が表示されます。

Functionボタン、音色ボタンのいずれかを押すと、設定状態から抜けます。

例: モード2を選ぶ



- 工場出荷時の設定はモード1です。
- メモリー・バックアップ機能(35ページ参照)を使って、設定を記憶させておくことができます。
- イコライザーの設定は、全音色に共通です。

4）音色デモ曲を聴く

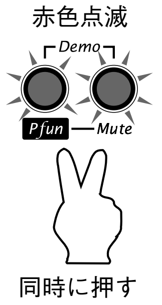
34種類の標準音色のうち、代表的な12種類の音色にはデモ曲が用意されています。これらは、各音色の特徴を生かした演奏になっていますので、音色を選ぶ際の参考にしたり、鑑賞用としてお楽しみください。

音色ボタン	音色名		曲名	作曲者名
Piano	赤色点滅	コンサート グランド	黒鍵のエチュード	ショパン
	緑色点滅	モダン ピアノ	オリジナル	
E.Piano	赤色点滅	クラシック エレクトリック ピアノ	オリジナル	
	緑色点滅	モダン エレクトリック ピアノ	オリジナル	
Organ	赤色点滅	ジャズ オルガン	オリジナル	
	緑色点滅	チャーチ オルガン	トッカータ	ジグー
Vibes	赤色点滅	ビブラホン	オリジナル	
	緑色点滅	ハープシコード	フランス組曲第6番	バッハ
Strings	赤色点滅	ストリングス	四季“春”	ヴィヴァルディ
	緑色点滅	ストリングス パッド	オリジナル	
Choir	赤色点滅	クワイヤー	オリジナル	
	緑色点滅	ニューエイジ	オリジナル	

1 音色デモ曲の再生

Demo（デモ）ボタン（Pfun（ピーファン）ボタンとMute（ミュート）ボタン）を2つ同時に押します。

Demoボタンが赤色に点滅し、再生が始まります。



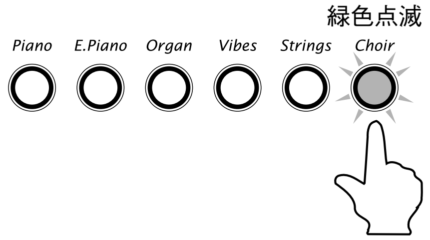
2 曲を選ぶ

12種類の標準音色の中から選びます。

選んだボタンが点滅して、デモ曲が再生されます。

- 表音色の曲を選んだ場合は、次にそのボタンの裏音色のデモが再生され、以降ランダムに連続再生されます。
- 裏音色の曲を選んだ場合は、次にそのボタンの表音色のデモが再生され、以降ランダムに連続再生されます。
- 再生中の曲のボタンが赤色または緑色点滅しますので、再生中の曲を確認できます。

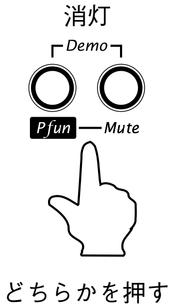
例: ニューエイジの曲を選ぶ



3 音色デモ曲の再生停止

Demoボタンのいずれかを押します。

Demoボタンが消灯し、音色デモ曲が止まります。



5）Pfun（ピーファン）ピアノ曲

Pfunピアノ曲は、“ポップスなど、お客様が普段耳にされているお好みの曲を、ピアノ演奏でも気軽に、しかも存分に楽しんで欲しい”、そんな思いから生まれた全く新しい感覚のピアノ･アレンジ曲です。具体的には次のような特長があります。

●パート編成を絞ったアレンジ

Pfunピアノ曲では、ピアノ/ベース/ドラムの3パートを基本に、ストリングスやオルガンなどを必要に応じて加えてあります。これによりピアノパートがクローズアップされるので、伴奏に合わせたピアノ演奏を存分に堪能していただけます。

●臨場感あふれるドラム･サウンドやピアノ演奏を盛り上げるベース･フレーズ

生き生きとしたドラム･サウンドやベース･フレーズにより、まるで自分の周りでバンド演奏をしてくれる仲間を得たような感覚でピアノ演奏をお楽しみいただけます。

●趣向を凝らした独自のピアノ･アレンジ

Pfunピアノ曲は、アレンジにピアノならではの工夫がされていますので、原曲とはひと味違ったピアノ演奏の醍醐味を味わっていただけます。

これに加えてes2では、パートのミュート機能や、曲中のポイントを指定することで練習したい部分までジャンプして再生する機能を搭載していますので、簡単な操作でピアノパートの練習やセッションを楽しんでいただけます。
さらにPfunピアノ曲をバックに演奏した内容を、レコーダーに録音することができます。（28ページ参照）
なお、es2には20曲のPfunピアノ曲を記憶するメモリーがあり、あらかじめ10曲が内蔵されています。また、この10曲に限らず新曲を追加してお楽しみいただくこともできます。

・コンピュータを使って、別売の「Pfunピアノ曲集（曲データ付き楽譜）」に収録されている曲を、es2本体に追加することができます。詳しくは、同梱の「楽譜集のご案内」をご覧ください。

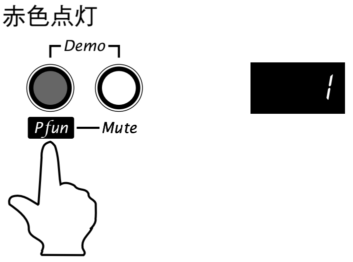
No.	曲名	アーティスト	作曲者
1	夜空ノムコウ	SMAP	川村結花
2	さよなら大好きな人	花＊花	こじまいづみ
3	promised you ～with P-edition～	ZARD	栗林誠一郎
4	眩暈	鬼束ちひろ	鬼束ちひろ
5	カブトムシ	aiko	aiko
6	SEASONS ayu-mi-x 3	浜崎あゆみ	D･A･I
7	真夏の果実	サザンオールスターズ	桑田佳祐
8	Miracles	平井堅	平井堅
9	Secret of my heart	倉木麻衣	大野愛果
10	First Love	宇多田ヒカル	宇多田ヒカル
11	（空エリア）		
12	:		
	:		
	:		
20	:		

Pfunピアノ曲を聴く

1 Pfunピアノ曲の再生開始

Pfunボタンを押します。

Pfunボタンが赤色に点灯し、1番目の曲がスタートします。

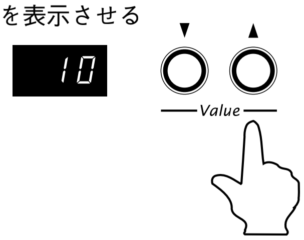


2 曲を選ぶ

Value（バリュー）ボタンを押して選びます。

選んだ曲の番号が表示され、再生が始まります。

10を表示させる

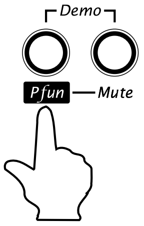


3 再生の停止

Pfun（ピーファン）ボタンを押します。

Pfunボタンが消灯し、再生が止まります。

消灯



ミュートして合奏する

伴奏に合わせて演奏したり、伴奏をミュートしてピアノパートの演奏だけを聴くことができます。

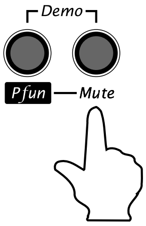
ピアノパートをミュートする場合

Mute（ミュート）ボタンを押します。

Muteボタンが赤色に点灯して、ピアノパートがミュートされます。伴奏だけが再生されますので、それをバックにピアノパートを演奏できます。

・同梱の「Pfunピアノ曲集」は、es2に内蔵のPfunピアノ曲に対応していますので、こちらを参考に演奏をお楽しみいただけます。

赤色点灯

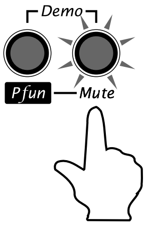


伴奏をミュートする場合

もう一度Muteボタンを押します。

Muteボタンが赤色に点滅して、伴奏がミュートされます。ピアノパートだけが再生されますので、同梱の「Pfunピアノ曲集」により、ピアノパートの演奏が確認できます。

赤色点滅

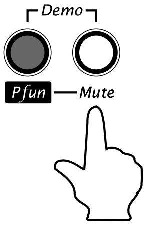


ミュートを取り消す場合

再度Muteボタンを押します。

Muteボタンが消灯して、ミュートが取り消されます。

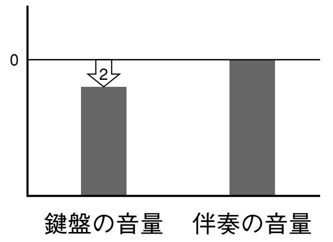
消灯



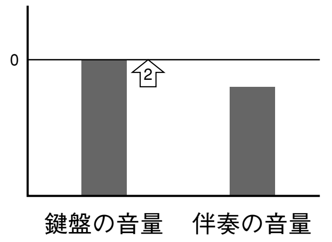
鍵盤と伴奏の音量バランスを調節する

Pfun（ピーファン）ピアノ曲の伴奏パートの音量を調節することができます。
鍵盤の音量に対する伴奏の音量バランスを相対的に-5～+5の範囲で調節します。

例: -2を選ぶ



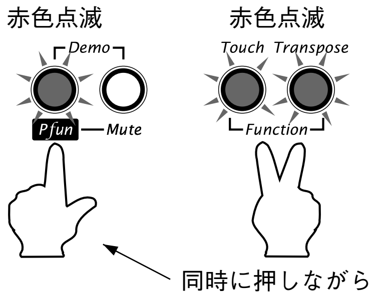
例: +2を選ぶ



1 音量バランスの設定準備

Function（ファンクション）ボタン（Touch（タッチ）ボタンとTranspose（トランスポーズ）ボタン）を押しながら、Pfunボタンを押します。

FunctionボタンとPfunボタンが赤色に点滅し、現在の設定が表示されます。



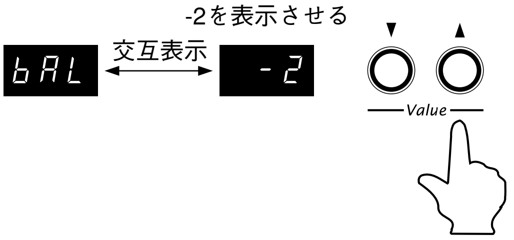
2 音量バランスを設定する

Value（バリュー）ボタンを押して設定します。

-5～+5の範囲で設定できます。

Functionボタン、Pfunボタンのいずれかを押すと、設定状態から抜けます。

例: -2を選ぶ

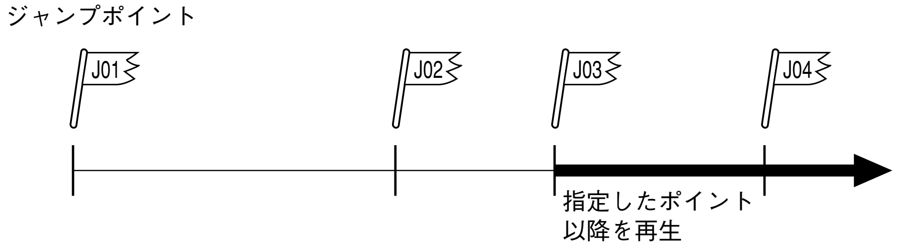


- 工場出荷時の設定値は0です。
- メモリー・バックアップ機能（35ページ参照）を使って、設定値を記憶させておくことができます。

指定したポイントから再生する

Pfunピアノ曲には、1曲をいくつかの小節で区切るジャンプポイントがあらかじめ設定されています。ジャンプポイントを指定して再生することで、繰り返し聴いたり、練習することができます。
・ジャンプポイントの数は曲によって異なります。

例: ジャンプポイントJ03を選んだ場合



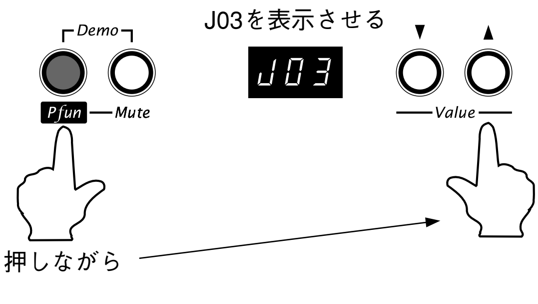
ジャンプポイントを指定する

Pfun（ピーファン）ボタンを押しながら、Value（バリュー）ボタンを押して指定します。

指定したポイントにジャンプし、再生されます。

- 再生中にPfunボタンをしばらく押して、ジャンプポイントの設定を表示した後に離すと、指定したポイントに再度ジャンプし、そこから再生することが可能です。
- 練習したい曲を繰り返し再生する場合は、ジャンプポイント1を指定します。
- 指定したジャンプポイントを解除する場合は、OFFを選択するか、選曲しなおしてください。

例: J03を選ぶ



テンポを変える

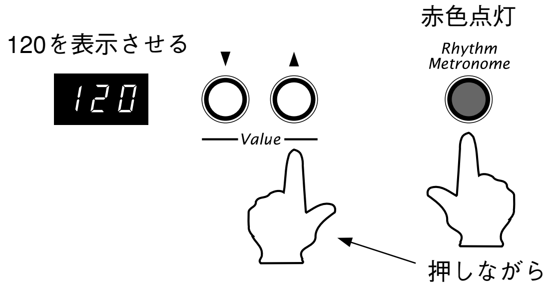
Pfunピアノ曲のテンポを変えることができます。

テンポを変える

Pfunピアノ曲再生中に、Rhythm/Metronome（リズム/メトロノーム）ボタンを押しながら、Value（バリュー）ボタンを押して指定します。

指定したテンポが表示され、テンポが変わります。

例: 120にする



6）コンサートマジック

コンサートマジックとは、初心者や小さなお子様でも気軽に音楽を楽しんでいただけるように、指一本で本格的なピアノ演奏を可能にする画期的な機能です。指揮者になった気分でピアノの鍵盤を押してみましょう。演奏のテンポや強弱は、鍵盤を押すタイミングや強さで自由自在に変えることができるので、簡単でありながら音楽的な表現を可能にする、とても楽しい機能です。

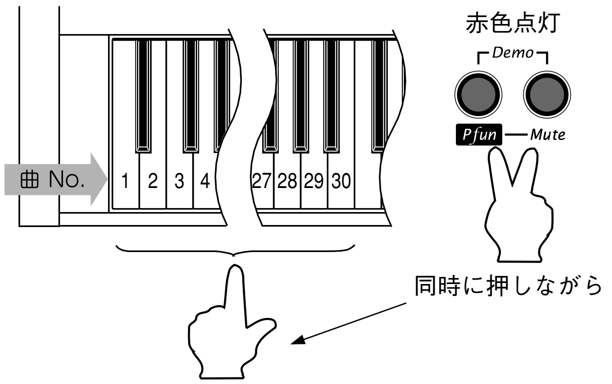
・コンサートマジック用の曲は30曲内蔵されており、下図のようにA-1〜B3の白鍵に割り当てられています。
・es2に内蔵されているコンサートマジック曲全曲を掲載した「コンサートマジック曲集Vol.2」(¥2,600)を、別売品としてご用意しております。お申し込みは、同梱の払込取扱表をご利用ください。コンサートマジックの魅力的な世界が一層拡がります。

最低音

1	A-1	・・・聖者の行進
2	B-1	・・・ロンドンデリーの歌（ダニーボーイ）
3	C0	・・・ケンタッキーの我が家
4	D0	・・・ウィリアムテル序曲
5	E0	・・・天国と地獄
6	F0	・・・エンタティナー
7	G0	・・・メヌエット ト長調
8	A0	・・・花のワルツ
9	B♭0	・・・スケーターズ・ワルツ
10	C1	・・・闘牛士の歌
11	D1	・・・ブラームスの子守歌
12	E1	・・・ワシントンポストマーチ
13	F1	・・・アメリカン・パトロール
14	G1	・・・眠りの森の美女
15	A1	・・・ガボット
16	B1	・・・軍隊行進曲
17	C2	・・・ジムノペディ 1番
18	D2	・・・プレリュード イ長調
19	E2	・・・メープル・リーフ・ラグ
20	F2	・・・双頭のわしの旗のもとに
21	G2	・・・エリーゼのために
22	A2	・・・アベマリア
23	B2	・・・ハバネラ
24	C3	・・・ジプシーの歌
25	D3	・・・結婚行進曲
26	E3	・・・婚礼の合唱
27	F3	・・・おめでとうクリスマス
28	G3	・・・ジングルベル
29	A3	・・・もろ人こぞりて
30	B3	・・・きよしこの夜

曲を選ぶ

Demo（デモ）ボタン（Pfun（ピーファン）ボタンとMute（ミュート）ボタン）を2つ同時に押しながら、白鍵を押して曲を選びます。



Demoボタンが赤色に点灯してディスプレイに曲ナンバーが表示され、コンサートマジック演奏の準備ができたことを示します。

演奏する

1 演奏の開始

上記の方法で曲を選んだ後、鍵盤を弾きます。

弾く鍵盤はどの鍵盤でもかまいません。好みのテンポで鍵盤を弾くと、そのタイミングで曲が進んでいきます。

・好みの音色を選んで演奏できます（10ページ参照）。

2 演奏の終了

Demoボタンのいずれかを押します。

Demoボタンが消灯し、コンサートマジック演奏が終了します。

聴く

コンサートマジックの曲は、デモ曲として通常の再生を行うこともできます。どんな曲なのかまず聴いてみたいときに便利です。

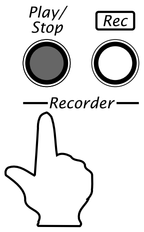
1 再生の開始

前ページの方法で曲を選んだ後、Play/Stop（プレイ/ストップ）ボタンを押します。

Play/Stopボタンが赤色に点灯し、再生が始まります。

- 選択した曲が終わると、次のNo.の曲が続けて再生されます。No. 30の曲まで再生された後は、No.1から順番に繰り返し再生されます。再生を止める場合は、Play/Stopボタンを押します。
- Value（バリュー）ボタンで曲目を変更することができます。
- Rhythm/Metronome（リズム/メトロノーム）ボタンを押しながら、Valueボタンを押してテンポを調節できます。

赤色点灯

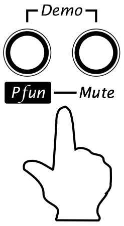


2 コンサートマジックの終了

Demo（デモ）ボタンのいずれかを押します。

Demoボタンが消灯し、コンサートマジックが終了して通常の状態に戻ります。

消灯

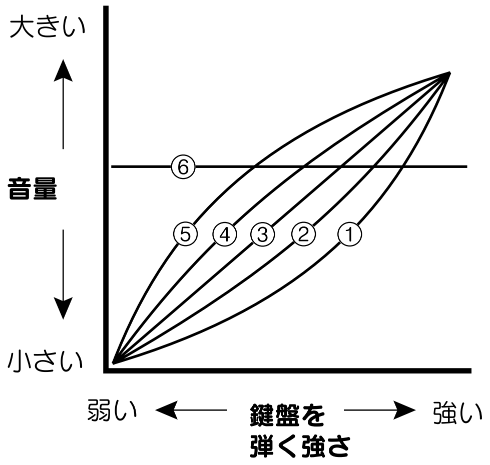


いずれかを押す

7）タッチカーブを切り替える

ピアノでは、鍵盤を弾く力をだんだん強くしていくと、音量もだんだん大きくなっていきます。タッチカーブとは、鍵盤を弾く強さと音量の関係を表したカーブです。es2では6種類のタッチカーブを装備しており、好みに合わせたタッチカーブに切り替えることができます。

種　類	ディスプレイ表示	特徴
①ヘビー2	HE2	指の力が強い人や練習向きのタッチカーブです。
②ヘビー1	HE 1	強いタッチで弾かないと大きな音が出ません。
③ノーマル	―	アコースティックピアノと同程度のタッチで音量が変化します。
④ライト1	Lt 1	小さなお子様や、オルガンプレーヤー向きです。
⑤ライト2	Lt2	弱いタッチで弾いても大きな音が出ます。
⑥オフ	oFF	弾く強さに関係なく一定の音量で鳴ります。



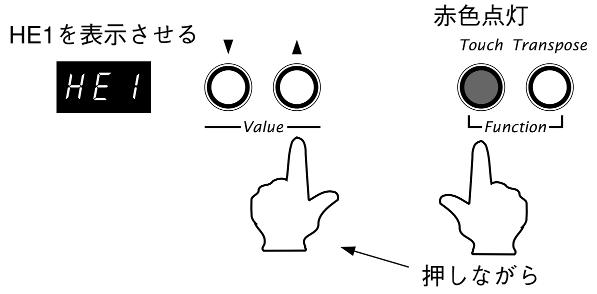
・③ノーマルはTouch（タッチ）ボタンが消灯しているときのカーブです。Touchボタンを消灯させると、いつでもノーマルに戻ります。
・タッチカーブの切り替え機能は、Touchボタンを点灯させたときのカーブを選ぶ機能です。工場出荷時の設定は④ライト1です。
・メモリー・バックアップ機能（35ページ参照）を使って、設定を記憶させておくことができます。

タッチカーブを切り替える

Touchボタンを押しながら、Value（バリュー）ボタンを押して選びます。

電源を切るまでは、Touchボタンを点灯させると、ここで指定したカーブが選ばれます。

例: ②ヘビー1を選ぶ



8) キー(調)を変える[トランスポーズ]

弾く鍵盤を変えずに、調の異なる楽器とアンサンブル演奏をしたり、歌う人の声の高さにキー(調)を合わせることができます。
移調(トランスポーズ)する値は半音単位、上下1オクターブずつ(-12～+12)の範囲で設定できます。
たとえば移調する値を「+5」に設定すると、「ド」を弾いたときに「ファ」の音が出ることになり、「ハ長調」で弾いても「ヘ長調」の曲になります。

移調する値を設定する

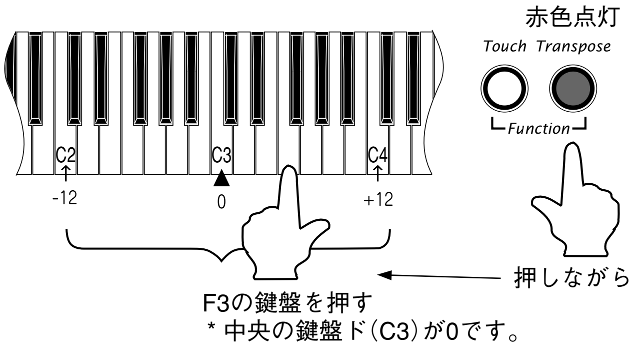
Transpose(トランスポーズ)ボタンを押しながら、C2～C4の鍵盤を押して指定します。
または、Transposeボタンを押しながら、Value(バリュー)ボタンを押して指定します。

移調する値がディスプレイに表示され、移調がオンになります。

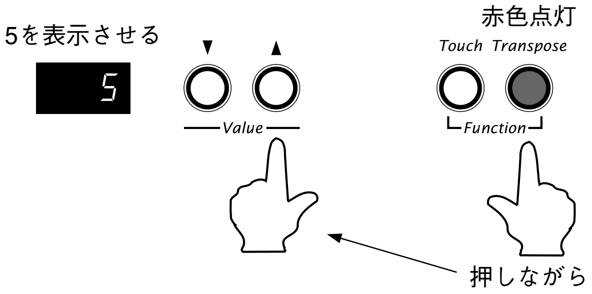
- Transposeボタンを点灯させたときに、移調がオンされます。
- Transposeボタンを押すたびに、移調がオン/オフされます。
- 移調する値を0に指定したときは、Transposeボタンは点灯しません。

- 工場出荷時の設定値は0です。
- メモリー･バックアップ機能(35ページ参照)を使って、設定値を記憶させておくことができます。

例: 移調する値を+5にする



または



9）リズム/メトロノームを鳴らす

es2は正確なテンポを刻むリズム/メトロノームを13種類内蔵しています。曲にマッチするリズムを加えて演奏を楽しんだり、メトロノームを鳴らして練習することができます。

分類	ディスプレイ表示	拍子	タイプ	最適テンポ
メトロノーム	1 - 4	1拍子	—	—
	2 - 4	2/4拍子	—	—
	3 - 4	3/4拍子	—	—
	4 - 4	4/4拍子	—	—
	6 - 8	6/8拍子	—	—
リズム	r - 1	8ビート	バラードからライトポップスまで幅広いジャンル向き	66〜112
	r - 2	8ビート	癒し系バラード向き	80〜92
	r - 3	8ビート	オーソドックスな8ビート	フリー
	r - 4	8ビート	8ビートのバリエーション	66〜112
	r - 5	8ビート	50年代風スローロック向き	フリー
	r - 6	16ビート	オーソドックスな16ビートでバラードやAOR向き	72〜100
	r - 7	16ビート	シャッフル·ビート	88〜100
	r - 8	16ビート	ダンス系のスウィング·ビート	88〜100

演奏する

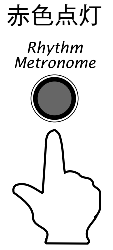
テンポを調節する

リズム/メトロノームのテンポ（1分間の拍数）を、30〜300の範囲で調節することができます。

1 リズム/メトロノームを鳴らす

Rhythm/Metronomeボタンを押します。

Rhythm/Metronomeボタンが赤色に点灯し、
リズムまたはメトロノームが鳴り出します。

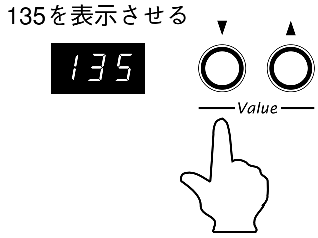


2 テンポを調節する

Valueボタンを押して調節します。

テンポがディスプレイに表示されます。

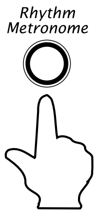
例: 135にする



3 リズム/メトロノームを止める

Rhythm/Metronomeボタンを押します。

Rhythm/Metronomeボタンが消灯し、リズム
またはメトロノームが止まります。



· 工場出荷時の設定値は120です。
· メモリー·バックアップ機能（35ページ参照）を使って、
  設定値を記憶させておくことができます。

拍子を選ぶ

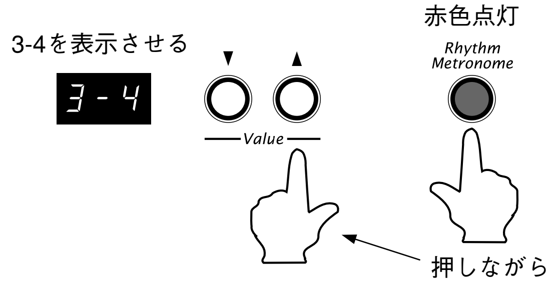
拍子を選ぶ

Rhythm/Metronome（リズム/メトロノーム）ボタンを押しながら、Value（バリュー）ボタンを押して選びます。

選んだ拍子を表す文字が表示され、拍子が切り替わります。

・工場出荷時の設定は4/4です。
・メモリー・バックアップ機能（35ページ参照）を使って、設定を記憶させておくことができます。

例: 3/4拍子のメトロノームを選ぶ



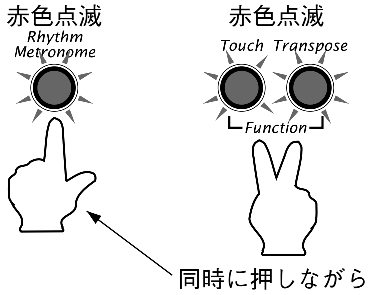
音量を調節する

リズム/メトロノームの音量を、1〜10の範囲で調節することができます。

1 *音量設定の準備*

Function（ファンクション）ボタン（Touch（タッチ）ボタンとTranspose（トランスポーズ）ボタン）を押しながら、Rhythm/Metronomeボタンを押します。

FunctionボタンとRhythm/Metronomeボタンが赤色に点滅し、音量設定が可能になります。



2 *音量を調節する*

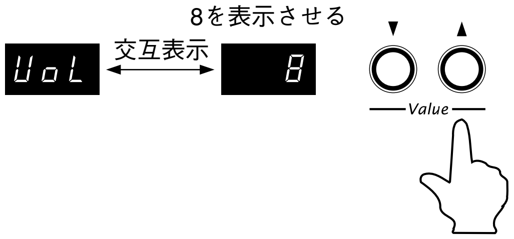
Valueボタンを押して調節します。

音量がディスプレイに表示されます。

Functionボタン、音色ボタンのいずれかを押すと、設定状態から抜けます。

・工場出荷時の設定値は5です。
・メモリー・バックアップ機能（35ページ参照）を使って、設定値を記憶させておくことができます。

例: 8にする



1）録音する

es2に演奏を4曲まで録音することができます。自分の演奏を録音しあとでじっくり聴いたり、指導者の方にお手本に録音してもらうなど、使い方は様々です。各曲とも2パートに分けて録音できるため、左手パートを先に録音しておき、再生しながら右手パートを録音することができます。また、連弾曲やアンサンブルの曲を1パートずつ録音して完成させることもできます。

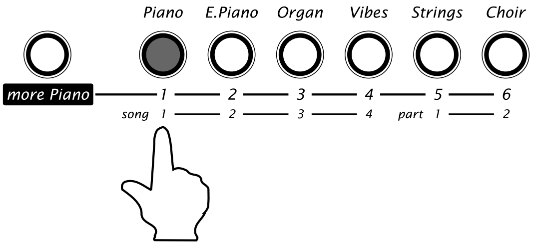
パート1に録音する

1 録音に使う音色を選ぶ

音色ボタンを押して指定します。

録音を行うと、音色の選択も記録されます。

例: コンサートグランドの音色を選ぶ



2 録音先を指定する

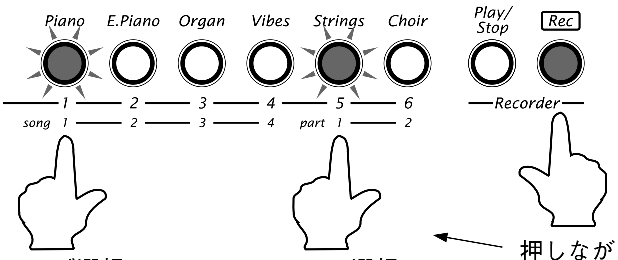
Rec（レック）ボタンを押しながら、録音するSong（ソング）とPart（パート） 1のボタンを順に押します。

Recボタンを押している間、指定したSongとPart 1のボタンは赤色に点滅します。

Recボタンを離すと、選んだSongとPart 1のボタンが消灯、Recボタンが点滅し、録音待機状態になります。

・録音を中止する場合は、Recボタンを押してRecボタンを消灯させます。

例: ソング1のパート1を選ぶ

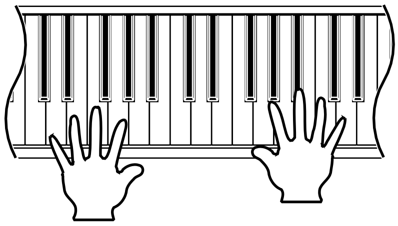


3 録音を開始する

演奏を始めます。

RecボタンとPlay/Stopボタンが点灯して、自動的に録音が始まります。

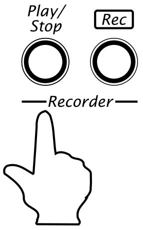
・Play/Stopボタンを押して録音を開始することもできます。



4 録音を終了する

Play/Stopボタンを押します。

RecボタンとPlay/Stopボタンが消灯して、録音が終了します。



・演奏を失敗した場合など録音し直す場合は、上記の1〜4の手順で再度行ってください。

パート2に録音する

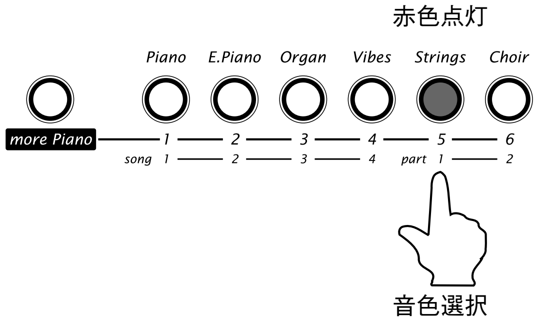
録音済みのパート1を聴きながら、パート2に録音してみましょう。

1 録音に使う音色を選ぶ

音色ボタンを押して指定します。

録音を行うと、音色の選択も記録されます。

例: ストリングスの音色を選ぶ



2 録音先を指定する

Rec（レック）ボタンを押しながら、録音するPart（パート） 2のボタンを押します。

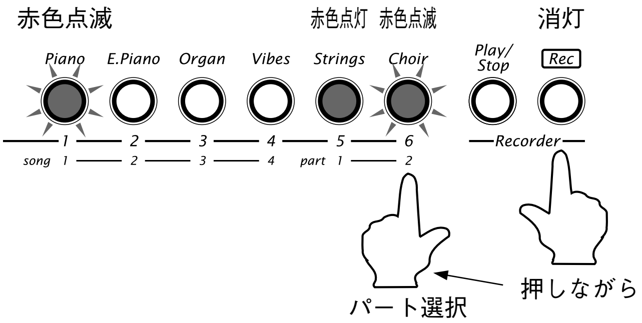
Recボタンを押している間、指定したSong（ソング）とPart 2のボタンは赤色に点滅して、録音待機状態になったことを示します。

また、Part 1のボタンは赤色に点灯しますが、これはすでに録音済みのPart 1が再生待機状態になったことを示します。

Recボタンを離すと、Recボタンは点滅に変わり、選んだSongとPart 2のボタンは点滅をやめて、最後に選んだ音色の点灯に変わります。

・録音を中止する場合は、Recボタンを押してRecボタンを消灯させます。

例: ソング1のパート2を選ぶ

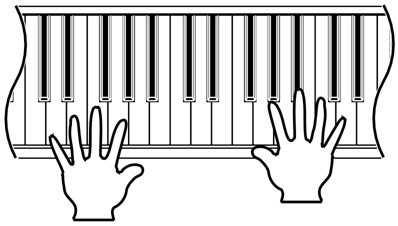


3 録音を開始する

演奏を始めます。

RecボタンとPlay/Stop（プレイ/ストップ）ボタンが点灯してパート1の内容が再生を始めると共に、パート2への録音が始まります。

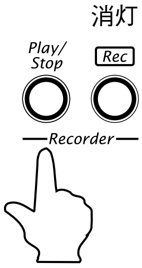
・Play/Stopボタンを押して録音を開始することもできます。



4 録音を終了する

Play/Stopボタンを押します。

RecボタンとPlay/Stopボタンが消灯して、録音が終了します。



・レコーダーの総記憶容量は、ソング1～4の合計で約10,000音です。録音中に記憶容量がいっぱいになると録音が中止されます。中止される直前までの演奏は録音されます。
・録音した内容は電源を切っても消えません。
・演奏を失敗した場合など録音し直す場合は、上記の1～4の手順で再度行ってください。

Pfunピアノ曲をバックに演奏して録音する

1 録音するPfunピアノ曲、ジャンプポイント、ミュート、音量バランスを設定する

2 Recボタンを押して録音待機状態にする

3 Pfunボタンを押して録音を開始する

・Pfunピアノ曲の演奏情報はパート1のみ録音できます。
・Pfunピアノ曲の演奏情報はMIDI送信されません。

2）再生する

録音した内容を再生してみましょう。

1 曲を指定する

Play/Stopボタンを押しながら、再生するSongボタンを押します。

指定したSongボタンが赤色に点滅します。

Play/Stopボタンを押している間に点灯するSongボタンは、録音済みのボタンです。

2 再生を開始する

Play/Stopボタンを離します。

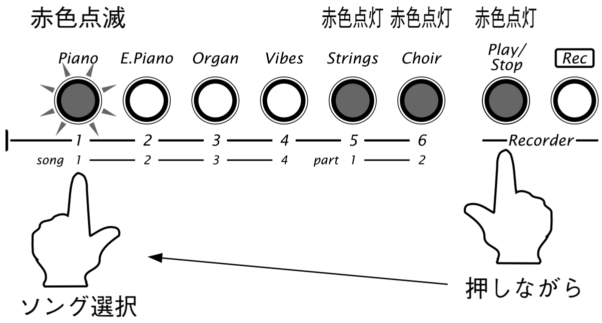
再生が始まります。

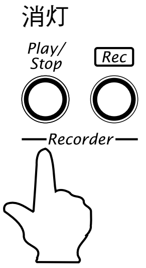
3 再生を終了する

Play/Stopボタンを押します。

Play/Stopボタンが消灯して、再生が終了します。

例: ソング1を選ぶ





パートをミュートする

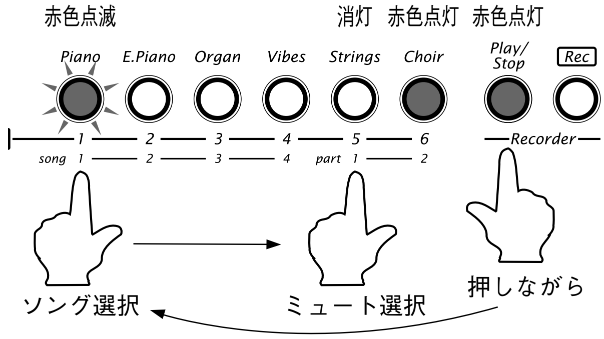
録音済みのパートでも、音を一時的に消して再生することができます。

片方のパートをミュートして再生する

Play/Stopボタンを押しながら、再生するSongボタン、ミュートするPartボタンを順に押します。

ミュートを指定したPartボタンは消灯し、残りのパートだけで再生が始まります。

例: ソング1のパート1をミュートする



3）録音済みのパートを消去する

不要な曲をパートごとに消去することができます。

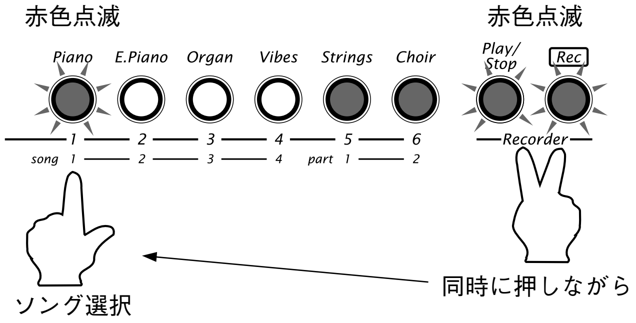
1 曲を指定する

Play/StopボタンとRecボタンを同時に押しながら、消去するパートのSongボタンを押します。Play/StopボタンとRecボタンは押し続けます。

指定したSongボタンが赤色に点滅します。

Play/StopボタンとRecボタンを同時に押したときに点灯するSongボタンは、録音済みのボタンです。

例: ソング1を指定する

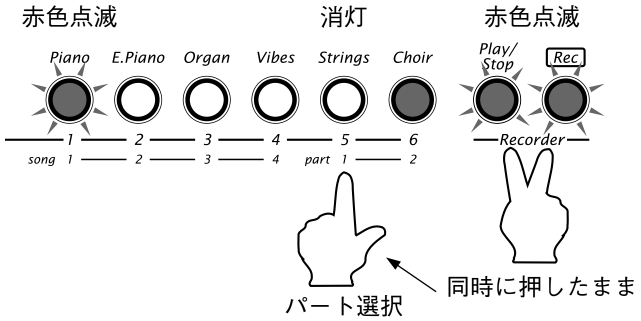


2 消去するパートを指定する

Play/StopボタンとRecボタンを同時に押したまま、消去するPartボタンを押します。

指定したPartボタンが消灯して、消去が完了します。

例: パート1を消去する



・別のパートも消去する場合は、上記の1〜2の手順で繰り返してください。

すべての曲を消去する

録音されているすべての曲（ソング1〜4）を一括で消去することができます。

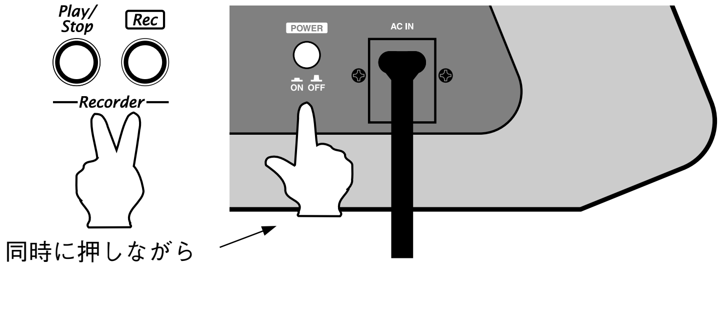
1 消去の準備

電源を切ります。

2 一括消去する

Play/StopボタンとRecボタンを同時に押しながら、電源を入れます。

一括消去が完了します。



1）設定の種類

この章では、es2をさらに発展させて使う設定モードの機能（ファンクション）を紹介します。
設定モードには下表の項目があります。

音色ボタン	音色ボタン赤色点滅			音色ボタン緑色点滅		
	機能名	ディスプレイ表示	説明ページ	機能名	ディスプレイ表示	説明ページ
Piano	ブリリアンス *	bri	30	MIDI送受信チャンネル *	Chn	38
E.Piano	チューニング *	tun	31	プログラムナンバー送信	PGo	39
Organ	ボイシング *	Uic	32	ローカルコントロール *	LcL	40
Vibes	ペダルエフェクト *	PdE	33	プログラムナンバー送信ON/OFF *	PGM	41
Strings	音律 *	tMP	34	マルチティンバー･モード *	MLt	43
Choir	メモリー･バックアップ	MEM	35	チャンネルミュート *	—	44

表中の“*”の機能は、メモリー･バックアップ機能（35ページ参照）を使って、設定値を記憶させておくことができます。

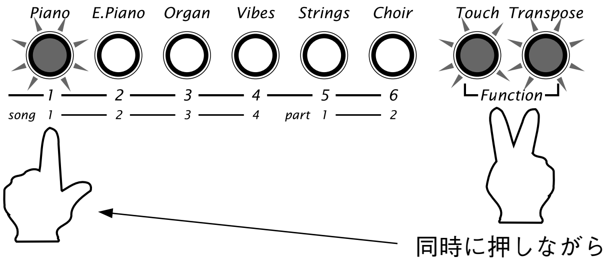
■ 設定モードの基本的な操作方法

1 設定モードに入る

Function（ファンクション）ボタン（Touch（タッチ）ボタンとTranspose（トランスポーズ）ボタン）を押しながら、メニューが割り当てられている音色ボタンを押します。

1つの音色ボタンに2つのメニューが割り当てられており、音色ボタンを繰り返し押すことでメニューを選択することができます。

赤色または緑色点滅　　赤色点滅



2 設定を変更する

各メニューの設定は、Value（バリュー）ボタンで変更します。

3 設定モードから抜ける

Touchボタンまたは Transposeボタンを押すか、音色ボタンを押します。

2）音の明るさを変える[ブリリアンス]

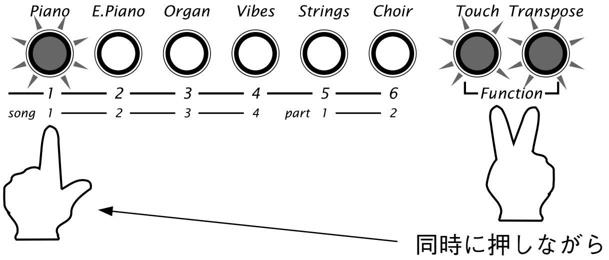
音の明るさを変えて演奏することができます。

1 ブリリアンスの設定準備

Functionボタンを押しながら、Piano（ピアノ）ボタンを押します。

FunctionボタンとPianoボタンが赤色に点滅し、現在の設定が表示されます。

赤色点滅　　赤色点滅



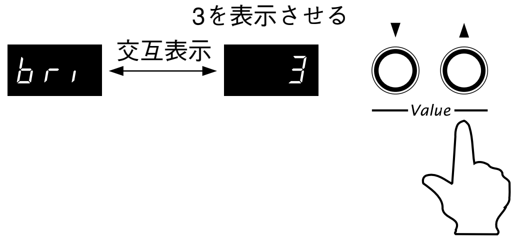
2 設定を変更する

Value（バリュー）ボタンを押して設定します。

-10〜+10の範囲で設定できます。
-側の値にするほど暗い音になり、+側の値にするほど明るい音になります。

Function（ファンクション）ボタン、音色ボタンのいずれかを押すと、設定モードから抜けます。

例: +3を選ぶ



- 工場出荷時の設定値は0です。
- メモリー･バックアップ機能(35ページ参照)を使って、設定値を記憶させておくことができます。

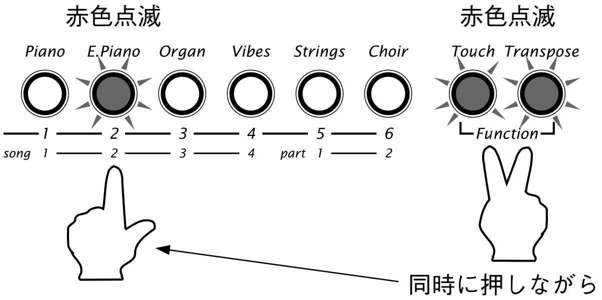
3) 音程を微調整する[チューニング]

他の楽器と合奏したり、CDなどの再生音に合わせて演奏するときに、ピッチ(音程)を合わせることができます。A3の音を基準にして、427.0〜453.0Hzの範囲、0.5Hz単位で設定できます。

1 チューニングの設定準備

Functionボタンを押しながら、E.Piano（エレクトリックピアノ）ボタンを押します。

FunctionボタンとE.Pianoボタンが赤色に点滅し、現在の設定が表示され、現在の基準音が発音されます。



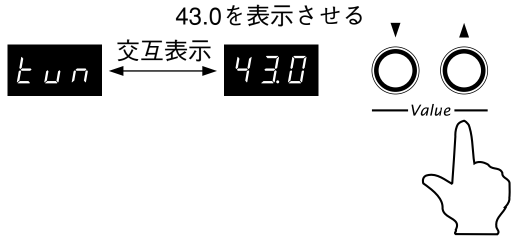
2 設定を変更する

Valueボタンを押して設定します。

A3の音を基準にして、427.0〜453.0Hzの範囲、0.5Hz単位で設定できます。表示は、百の位が省略されて十の位以下が表示されます。
値を大きくするほど音程が高くなります。

Functionボタン、音色ボタンのいずれかを押すと、設定モードから抜けます。

例: 443.0Hzを選ぶ



- 工場出荷時の設定値は440.0Hzです。
- メモリー･バックアップ機能(35ページ参照)を使って、設定値を記憶させておくことができます。

4) 音色のニュアンスを変える[ボイシング]

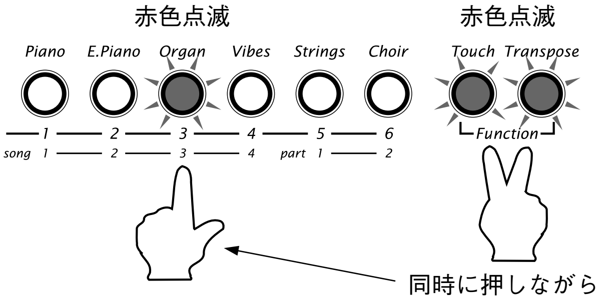
アコースティックピアノは、ピアノ内部のハンマーフェルトの堅さの違いによっても、音色のニュアンスが微妙に異なるものです。es2のボイシング機能では、これと同様に音色のニュアンスを変えることができます。

種　類	ディスプレイ表示	機　能
ノーマル	nrN	標準の設定です。
メロウ	NEL	柔らかめのハンマーをシミュレートしたソフトな音色です。
ダイナミック	dYn	弱く弾いたときはソフトな音色、強く弾いたときはブライトな音色。ダイナミックに変化します。
ブライト	brt	硬めのハンマーをシミュレートしたブライトな音色です。

1 ボイシングの設定準備

Function（ファンクション）ボタンを押しながら、Organ（オルガン）ボタンを押します。

FunctionボタンとOrganボタンが赤色に点滅し、現在の設定が表示されます。



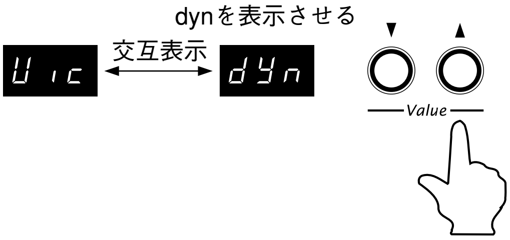
2 設定を変更する

Value（バリュー）ボタンを押して設定します。

4種類の中から選択できます。

Functionボタン、音色ボタンのいずれかを押すと、設定モードから抜けます。

例: ダイナミックを選ぶ



· 工場出荷時の設定はノーマルです。
· メモリー·バックアップ機能(35ページ参照)を使って、設定を記憶させておくことができます。

5) ダンパーペダルの共鳴効果を変える[ペダルエフェクト]

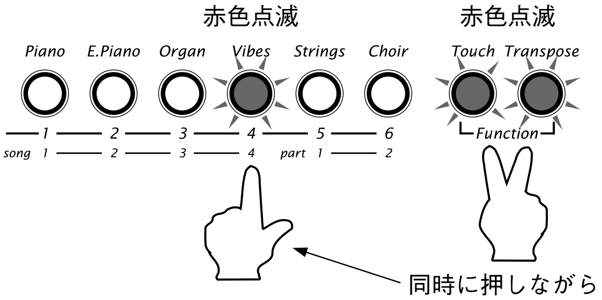
アコースティックピアノでは、ダンパーペダル(8ページ参照)を踏んだとき、ピアノ全体の共鳴効果が加わります。es2のペダルエフェクト機能では、これと同様に共鳴効果の深さを変えることができます。

種　類	ディスプレイ表示	機　能
オフ	oFF	共鳴音は加わりません。
1	1	共鳴効果が浅くかかります。
2	2	共鳴効果が深くかかります。

1 ペダルエフェクトの設定準備

Functionボタンを押しながら、Vibesボタンを押します。

FunctionボタンとVibesボタンが赤色に点滅し、現在の設定が表示されます。



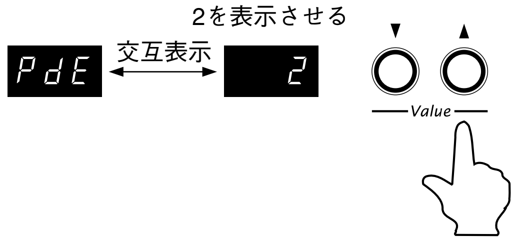
2 設定を変更する

Valueボタンを押して設定します。

3種類の中から選択できます。

Functionボタン、音色ボタンのいずれかを押すと、設定モードから抜けます。

例: 2を選ぶ



・工場出荷時の設定は1です。
・メモリー･バックアップ機能(35ページ参照)を使って、設定を記憶させておくことができます。

6）音律を変える

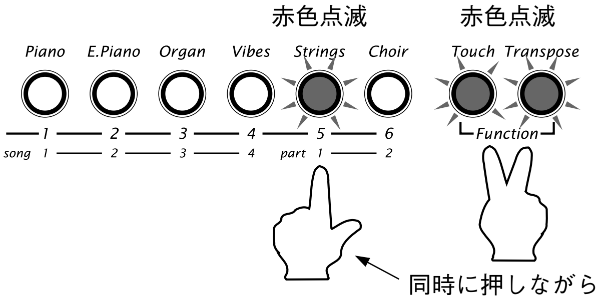
ピアノの音律（調律法）には様々なものがあります。現在最も一般的な音律は平均律ですが、平均律が完成するまでには、様々な音律と音楽が誕生しました。es2には9種類の音律が用意されています。その当時の音律に合わせて演奏すれば、その曲が誕生したときの響きを味わうことができます。

種　類	ディスプレイ表示	機　能
平均律（ピアノ）	EqP	ピアノの音色を選んだ場合はピアノの調律曲線に従い、それ以外の音色を選んだ場合は平均律（フラット）に従います。
純正律（長調）	Pr 1	3度と5度のうなりをなくした調律法です。合唱音楽では、現在でも随所にこの音律に基づいた演奏が行われています。
純正律（短調）	Pr2	純正律は長調と短調で異なります。 長調と同様の特長を持ちます。
ピタゴラス音律	Pyt	5度のうなりをなくした調律法です。和音よりもメロディーを演奏すると非常に美しいのが特長です。
中全音律	Mnt	3度のうなりをなくした調律法で、平均律よりも和音が美しく響きます。
ヴェルクマイスター第Ⅲ法	Wrk	調号の少ない調は和音が美しい中全音律に近く、調号が増えるに従って緊張感が高くメロディーが美しいピタゴラス音律に近い音律です。古典音楽の作曲家が意図した“調正の性格”を反映させることができます。
キルンベルガー第Ⅲ法	Krn	
平均律（フラット）	EqF	ピアノの調律曲線を使わない平坦な平均律です。どのように移調しても、和音の響きが変わらないという特長があります。
平均律（ストレッチ）	EqL	ピアノの調律曲線を使った平均律です。ピアノの調律法として最もポピュラーなものです。

1 音律の設定準備

Function（ファンクション）ボタンを押しながら、Strings（ストリングス）ボタンを押します。

FunctionボタンとStringsボタンが赤色に点滅し、現在の設定が表示されます。

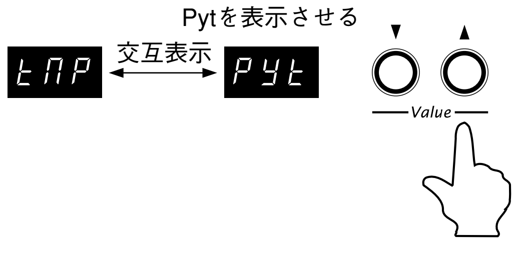


2 設定を変更する

Value（バリュー）ボタンを押して設定します。

9種類の中から選択できます。

例: ピタゴラス音律を選ぶ



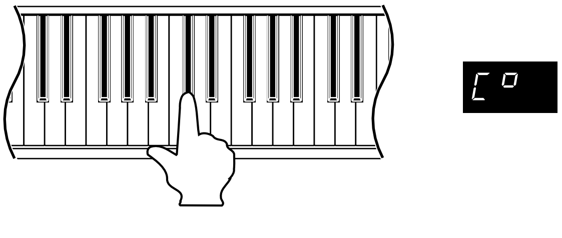
3 演奏する曲の調を指定する

鍵盤を押して設定します。

C、C♯、D、D♯、E、F、F♯、G、G♯、A♯、Bの中から選択できます。ただし、平均律を選択した場合は、調を指定する必要はありません。

Functionボタン、音色ボタンのいずれかを押すと、設定モードから抜けます。

例: C♯を選ぶ



・工場出荷時の設定は平均律（ピアノ）およびCです。
・メモリー・バックアップ機能（35ページ参照）を使って、設定を記憶させておくことができます。

7）設定を記憶させる[メモリー・バックアップ]

パネル上の各種設定を、記憶（バックアップ）することができます。電源を入れると、記憶させた状態で演奏できるようになります。

記憶されるのは次の項目です。

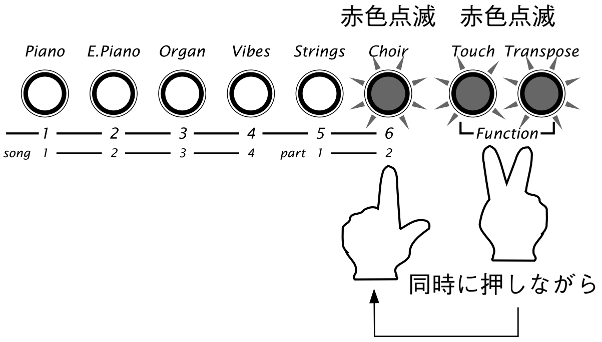
- 音色の選択
- 音色ごとの効果（コーラス、リバーブ）の設定
- イコライザーの設定
- Pfunピアノ曲の伴奏音量
- 各種設定（30ページの表を参照）
- トランスポーズの設定
- リズム/メトロノームの拍子、テンポ、音量

種　類	ディスプレイ表示	機　能
リセット	rES	電源を入れたときに、工場出荷時の状態に戻ります。
ユーザー	uSr	メモリー・バックアップ実行時のパネル上の設定を記憶します。 電源を入れたときに、記憶した状態になります。

1 メモリーバックアップの設定準備

Function（ファンクション）ボタンを押しながら、Choir（クワイヤー）ボタンを押します。

FunctionボタンとChoirボタンが赤色に点滅します。

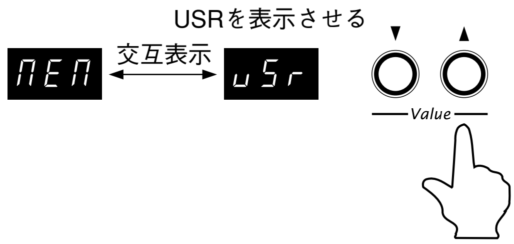


2 設定を変更する

Value（バリュー）ボタンを押して設定します。

注）表示を設定しただけでは記憶されません。必ず**3**を実行してください。

例: ユーザーを選ぶ

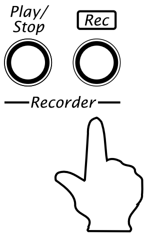


3 リセットかユーザーを記憶する

Rec（レック）ボタンを押します。

メモリー・バックアップが実行されます。

Functionボタン、音色ボタンのいずれかを押すと、設定モードから抜けます。



が表示され、メモリー・バックアップが実行される。

8）MIDI機能を使う

es2にはMIDI機能があります。MIDI機能を使うと、他のMIDI機器と様々なやりとりが可能です。

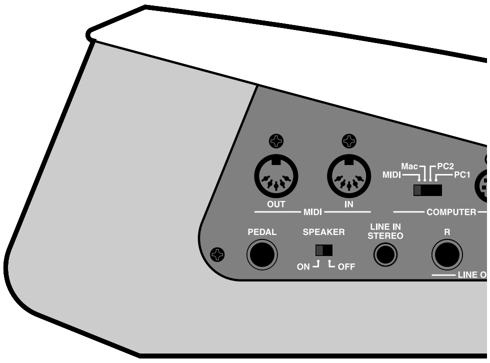
MIDIについて

MIDIとは、Musical Instrument Digital Interface（ミュージカルインストゥルメント デジタル インターフェース）の略称で、MIDI端子を装備した楽器や周辺機器、コンピュータと接続して、演奏情報や各種の命令を送受信するための世界統一規格です。

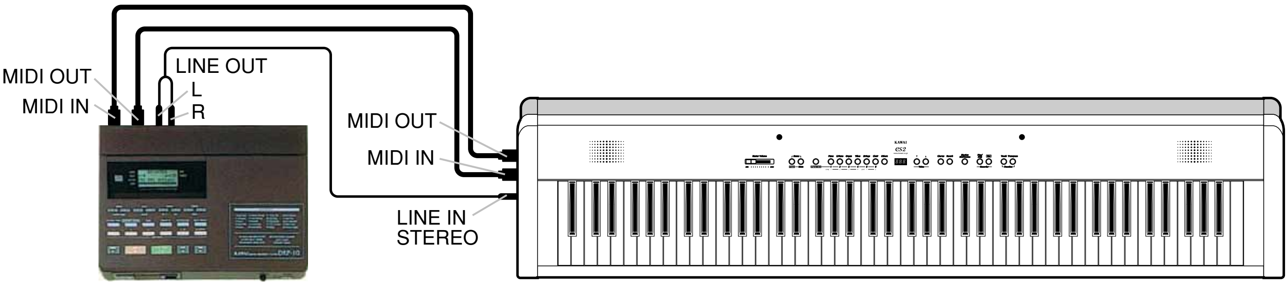
es2のMIDI端子には、MIDI INとMIDI OUTの2種類あります。他の機器との接続にMIDIケーブルを使用します。

MIDI IN　：演奏情報や各種の命令を受信します。
MIDI OUT：演奏情報や各種の命令を送信します。

※MIDIを使用する場合は、コンピュータ切り替えスイッチをMIDIにしてください。



■ MIDI接続例



図のようにカワイ音源内蔵レコーダー「DRP-10」と接続すれば、さらに多くの演奏をDRP-10に録音することができ、それを再生して練習に役立てることができます。また、es2の設定をマルチティンバー・モード オン（42ページ参照）にして再生を行えば、ピアノ、ハープシコード、ビブラホンなど複数の音色によるアンサンブル演奏を楽しむこともできます。
また、「DRP-10」も音源を内蔵してますので、その内蔵音色を使って演奏を楽しむこともできます。

その他、外部機器との接続は、45ページを参照してください。

es2のMIDI機能

es2のMIDI機能は、以下の通りです。

◆ 鍵盤情報の送信･受信
es2を弾いてシンセサイザーなどから音を出したり、その逆が可能です。

◆ 送受信チャンネルの設定
送受信チャンネルを1〜16の範囲で設定することができます。

◆ プログラム(音色)ナンバーの送信
es2とMIDI接続した機器の音色を、es2側の操作で変えたり、その逆が可能です。

◆ ペダル情報の送信・受信
付属のフットペダル(F-1r)の接続時に、ダンパーペダルのオン/オフ情報を送受信できます。
別売のフットペダル(F-2r：2本ペダル)を使用すれば、ソフトペダルのオン/オフ情報も送受信できます。

◆ ボリューム情報の受信
シンセサイザーなどを弾いてes2の音を出しているとき、シンセサイザーでes2の音量をコントロールすることができます。

◆ マルチティンバー･モードの使用
es2をマルチティンバー･モード オンにすると、複数の異なるチャンネルの鍵盤情報を受信して、それぞれ別の音色で鳴らすことができます。

◆ エクスクルーシブデータの送信･受信
パネル操作や各種設定モードで設定した値を、エクスクルーシブデータとして送受信させることができます。

◆ es2のレコーダーの再生情報の送信
es2のレコーダーに録音した演奏を、MIDI接続した電子楽器側で鳴らしたり、外部シーケンサーに録音することができます。
リズム/メトロノームやPfunピアノ曲データは、MIDI送信されません。

MIDI送受信チャンネルの設定

接続するMIDI機器と演奏情報や各種の命令をやりとりするためには、送信側の送信チャンネルと受信側の受信チャンネルを一致させておく必要があります。
es2では、送信·受信共通のチャンネルを設定するようになっています。

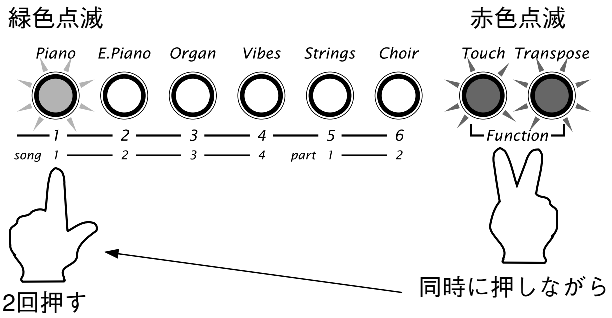
ディスプレイ表示	受信チャンネル	送信チャンネル
on 1	オムニ·オン	1
1	1	1
2	2	2
3	3	3
	·	
	·	
	·	
16	16	16

※ 工場出荷時の設定はon1(オムニ·オン、送信チャンネルは1)の状態になっています。オムニ·オンは、1〜16チャンネルすべての情報を受信できる状態です。MIDI送受信チャンネルの設定を行うとオムニ·オフになり、設定したチャンネルの情報のみ受信するようになります。

1 MIDI送受信チャンネルの設定準備

Functionボタンを押しながら、Pianoボタンを2回押してPianoボタンを緑色に点滅させます。

現在の設定が表示されます。



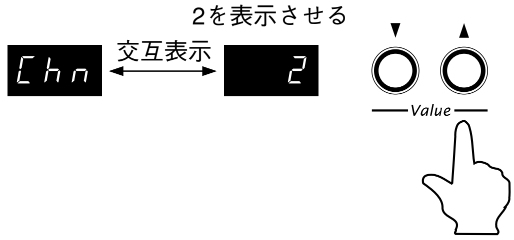
2 設定を変更する

Valueボタンを押して設定します。

on1、1〜16チャンネルの範囲で指定できます。

Functionボタン、音色ボタンのいずれかを押すと、設定モードから抜けます。

例: チャンネル2を選ぶ



· メモリー·バックアップ機能(35ページ参照)を使って、設定を記憶させておくことができます。

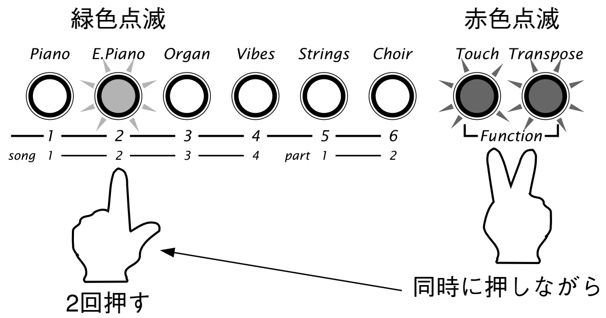
プログラムナンバーを送信する

es2でプログラム（音色）ナンバー送信の操作をして、外部機器の音色を切り替えることができます。

・1～128の範囲でプログラムナンバーを送信できます。
・41ページで紹介する「プログラムナンバー送信 オン/オフの設定」に影響されることはありません。

1 プログラムナンバーの指定準備

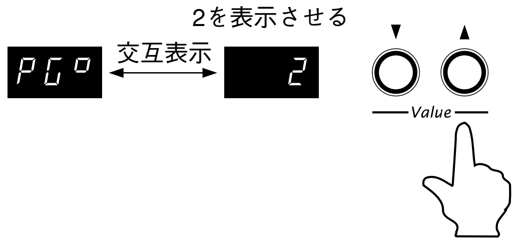
Function（ファンクション）ボタンを押しながら、E.Piano（エレクトリックピアノ）ボタンを2回押してE.Pianoボタンを緑色に点滅させます。



2 プログラムナンバーを指定する

Value（バリュー）ボタンを押して指定します。
1～128の範囲で指定できます。

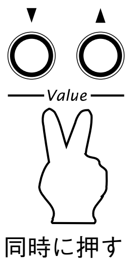
例: プログラムナンバー2を選ぶ



3 プログラムナンバーを送信する

Valueボタンを2つ同時に押します。
プログラムナンバーが送信されます。

Functionボタン、音色ボタンのいずれかを押すと、設定モードから抜けます。



ローカルコントロール オン/オフの設定

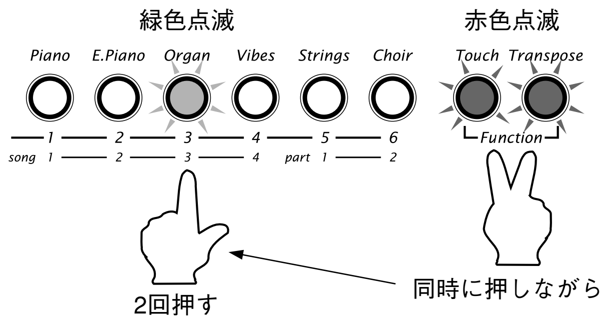
es2の演奏音をes2で出すか出さないかを指定できます。
ローカルコントロール オンを指定すると、es2の鍵盤を弾くと通常通りes2から音が出ます。
ローカルコントロール オフを指定すると、es2の鍵盤を弾いてもes2から音が出なくなります。
es2の演奏音を外部機器側だけで鳴らしたいときは、ローカルコントロール オフを指定してください。

・ローカルコントロール オフを指定した場合でも、外部機器の演奏情報を受信してes2から音を出すことができます。

1 ローカルコントロールの設定準備

Function（ファンクション）ボタンを押しながら、Organ（オルガン）ボタンを2回押してOrganボタンを緑色に点滅させます。

現在の設定が表示されます。

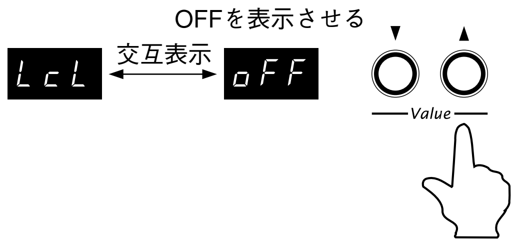


2 設定を変更する

Value（バリュー）ボタンを押して設定します。

Functionボタン、音色ボタンのいずれかを押すと、設定モードから抜けます。

例: ローカルコントロール オフを選ぶ



・工場出荷時の設定はローカルコントロール オンです。
・メモリー・バックアップ機能(35ページ参照)を使って、設定を記憶させておくことができます。

プログラムナンバー送信 オン/オフの設定

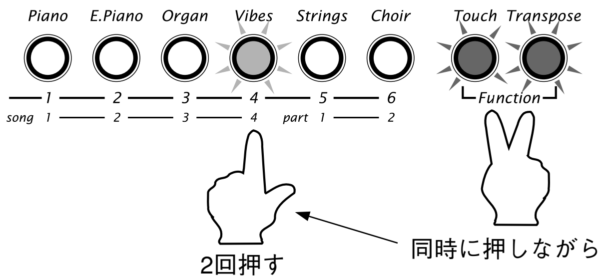
es2の音色ボタンを操作したときにプログラム(音色)ナンバーを送信するかしないかを指定できます。
プログラムナンバー送信 オンを指定すると、es2で音色選択をしたときに通常通りes2からプログラムナンバーを送信します。(次ページのプログラムナンバー表を参照)
プログラムナンバー送信 オフを指定すると、es2で音色選択をしてもes2からプログラムナンバーは送信しません。es2で音色を切り替えても外部機器側の音色を切り替えたくない場合には、プログラムナンバー送信 オフを指定してください。

※プログラムナンバー送信 オンを指定しておくと、以下のMIDIエクスクルーシブデータも送信されます。

- コーラスのオン/オフ操作
- リバーブの設定(オン/オフ、タイプ)操作
- チューニング操作
- プログラムナンバー送信オン/オフの操作
- タッチカーブセレクトの操作
- デュアルの設定操作
- 音律の設定操作
- マルチティンバー･モード オン/オフの操作
- マルチティンバー･モードのチャンネルミュートの設定操作

1 プログラムナンバー送信の設定準備

Function(ファンクション)ボタンを押しながら、Vibes(バイブズ)ボタンを2回押してVibesボタンを緑色に点滅させます。
現在の設定が表示されます。

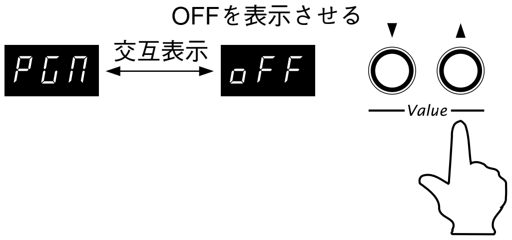


2 設定を変更する

Value(バリュー)ボタンを押して設定します。

Functionボタン、音色ボタンのいずれかを押すと、設定モードから抜けます。

例:プログラムナンバー送信 オフを選ぶ



- 工場出荷時の設定はプログラムナンバー送信 オンです。
- メモリー･バックアップ機能(35ページ参照)を使って、設定を記憶させておくことができます。
- デュアルモード時には、デュアルモードのオン/オフ情報、音色の切り替えなどをエクスクルーシブで送信しますが、プログラムナンバーは送信しません。(マルチティンバー･モード オンのときは送信します。)

◆音色に対応するプログラムナンバー

音色	マルチティンバーモード			
	オフ時	オン時		
	Prog #	Bank MSB	Bank LSB	Prog #
Piano				
コンサート グランド	1	121	0	1
モダン ピアノ	2	121	0	2
E. Piano				
クラシック エレクトリック ピアノ	3	121	0	5
モダン エレクトリック ピアノ	4	121	0	6
Organ				
ジャズ オルガン	5	121	0	18
チャーチ オルガン	6	121	0	20
Vibes				
ビブラホン	7	121	0	12
ハープシコード	8	121	0	7
Strings				
ストリングス	9	121	0	49
ストリングス パッド	10	121	2	49
Choir				
クワイヤー	11	121	0	53
ニューエイジ	12	121	0	89
Others				
メロー グランド	13	121	2	1
ロック ピアノ	14	121	1	2
60's エレクトリック ピアノ	15	121	3	5
レジェンド エレクトリック ピアノ	16	121	3	6
モダン エレクトリック ピアノ 2	17	121	1	6
モダン ビブラホン	18	121	1	12
ハープシコード オクターブ	19	121	1	7
ビューティフル ストリングス	20	121	0	50
ウォーム ストリングス	21	121	1	49
シンセ ストリングス	22	121	0	51
アコースティック ベース	23	121	0	33
フィンガー ベース	24	121	0	34
エレクトリック ベース	25	121	1	34
ピック ベース	26	121	0	35
フレットレス ベース	27	121	0	36
スラップ ベース	28	121	0	38
シンセ ベース	29	121	0	39
クラビ ベース	30	121	3	39
スタンダード ドラム キット 1	31	120	0	1
スタンダード ドラム キット 2	32	120	0	33
ルーム ドラム キット	33	120	0	9
アナログ ドラム キット	34	120	0	26
more Piano				
ピアノ ストリングス 1	35	121	101	1
ピアノ ストリングス 2	36	121	102	1
ピアノ ボイス	37	121	103	1
ピアノ ブラス	38	121	104	1
エレピ ストリングス	39	121	101	6
エレピ ウィンド	40	121	102	6

マルチティンバー・モード オン/オフの設定

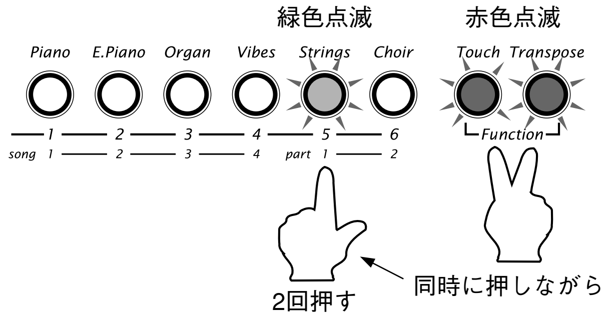
マルチティンバー･モード オン/オフの設定ができます。
通常のマルチティンバー･モード オフのときは、設定したMIDIチャンネル（1〜16のいずれか1つ）で情報を送受信しますが、マルチティンバー･モード オンを指定すると、複数のMIDIチャンネルの演奏情報を受信できるようになり、個々のチャンネルで受信したプログラムナンバーに各音色が対応して鳴ります。（受信したプログラムナンバーに対応する音色は前ページの表の通りです。）
この機能を使うことにより、外部のシーケンサーに記録してあるアンサンブル演奏を、es2の複数の音色で鳴らすことができます。

※ マルチティンバー･モード オンの場合は、次ページのチャンネルミュートの機能を使うと、チャンネルごとに発音をオン/オフできます。

1 マルチティンバー・モードの設定準備

Functionボタンを押しながら、Stringsボタンを2回押してStringsボタンを緑色に点滅させます。

現在の設定が表示されます。

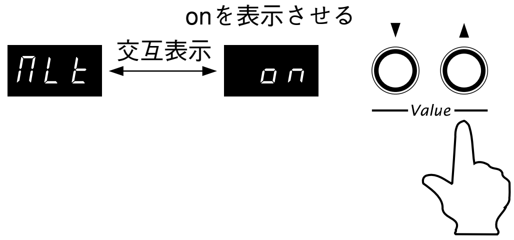


2 設定を変更する

Valueボタンを押して設定します。

Functionボタン、音色ボタンのいずれかを押すと、設定モードから抜けます。

例: マルチティンバー･モード オンを選ぶ



- 工場出荷時の設定はマルチティンバー･モード オフです。
- メモリー･バックアップ機能（35ページ参照）を使って、設定を記憶させておくことができます。

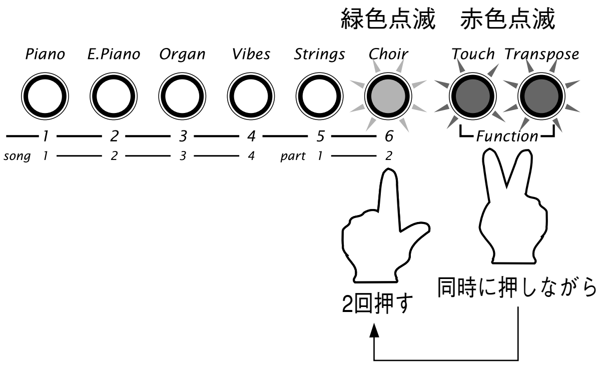
チャンネルミュートの設定

マルチティンバー･モード オンを指定した場合のみ設定する機能で、1～16チャンネルそれぞれ発音のオン/オフを指定できます。

・ マルチティンバー･モード オフの場合は、この機能は設定できません。

1 チャンネルミュートの設定準備

Function(ファンクション)ボタンを押しながら、Choir(クワイヤー)ボタンを2回押してChoirボタンを緑色に点滅させます。



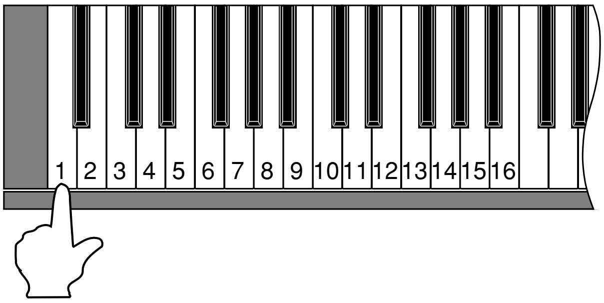
2 設定するチャンネルを指定する

設定するチャンネルに対応する鍵盤を押します。

指定したチャンネルの現在の設定が表示されます。

この機能の設定を行っている間は、鍵盤を押しても音が出ません。

例: 1チャンネルを指定する



3 設定を変更する

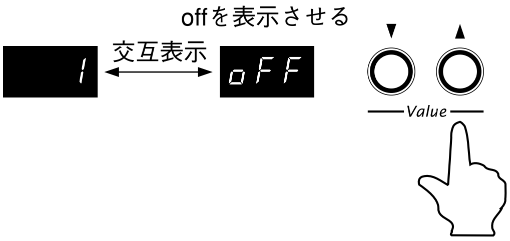
Value(バリュー)ボタンを押して指定します。

発音させる場合はオンを指定し、発音させない場合はオフを指定します。

他のチャンネルを設定する場合は、2、3の操作を繰り返して設定してください。

Functionボタン、音色ボタンのいずれかを押すと、設定モードから抜けます。

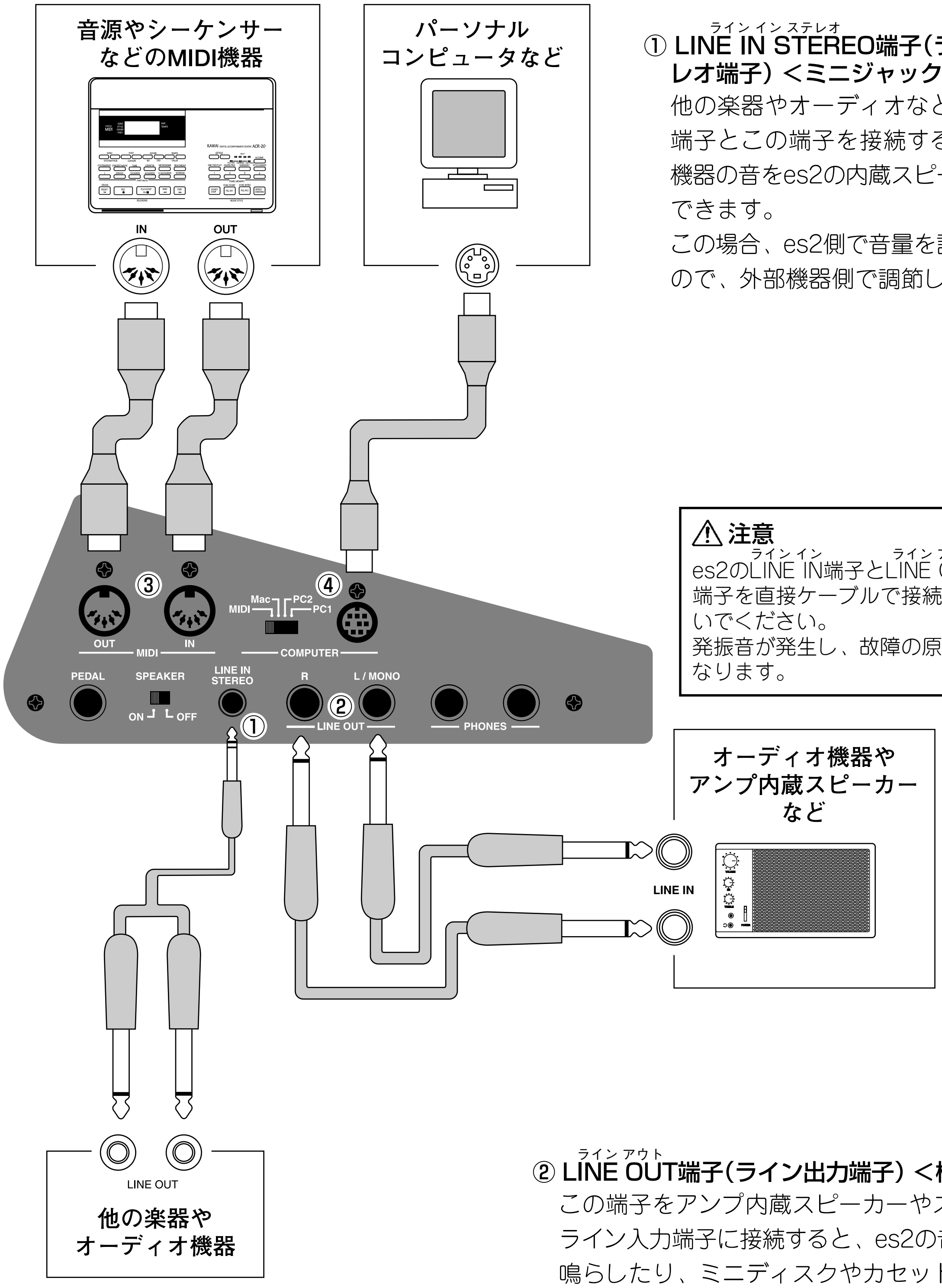
例: オフを指定する



・ 工場出荷時の設定は、全チャンネルオンです。
・ メモリー･バックアップ機能(35ページ参照)を使って、設定を記憶させておくことができます。

1）外部機器と接続する

⚠ 外部機器と接続する場合には、各機器の電源を切ってください。また、電源を入れたり切ったりする前に各機器のボリュームを最小にしてください。
es2や外部機器の故障の原因になります。



① LINE IN STEREO端子（ライン入力ステレオ端子）<ミニジャック>

他の楽器やオーディオなどのライン出力端子とこの端子を接続すると、接続した機器の音をes2の内蔵スピーカーから出力できます。
この場合、es2側で音量を調節できませんので、外部機器側で調節してください。

⚠ 注意
es2のLINE IN端子とLINE OUT端子を直接ケーブルで接続しないでください。
発振音が発生し、故障の原因になります。

② LINE OUT端子（ライン出力端子）<標準ジャック>

この端子をアンプ内蔵スピーカーやステレオなどのライン入力端子に接続すると、es2の音を外部機器で鳴らしたり、ミニディスクやカセットテープに録音することができます。
外部機器とステレオ接続する場合には、R端子とL/MONO端子両方を使用し、モノラル接続する場合にはL/MONO端子だけを使用してください。
es2の出力レベルは、Master Volumeで調節することができます。

③ MIDI(ミディ)端子

MIDI規格対応の機器と接続する端子です。市販のMIDIケーブルをご使用ください。

④ COMPUTER(コンピュータ)

シリアルインターフェース端子
市販の専用ケーブルで直接コンピュータと接続し、MIDIデータをやりとりすることができます。

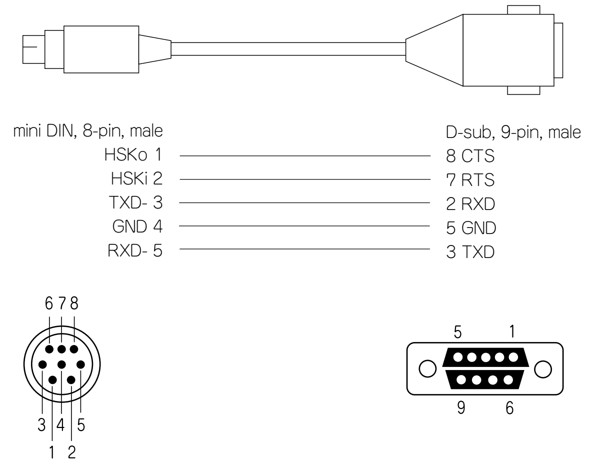
MIDI(ミディ)/Mac(マック)/PC-2/PC-1スイッチ
コンピュータと接続するとき、コンピュータの種類に応じて切り替えます。

MIDI： MIDI端子を使用する場合
Mac： マッキントッシュと接続する場合
PC-2：DOS/V互換機（NEC NXシリーズを含む）と接続する場合
PC-1：NEC PC98シリーズと接続する場合

・USB機器と接続する場合は、USB対応MIDIインターフェースを介して、MIDI端子と接続してください。

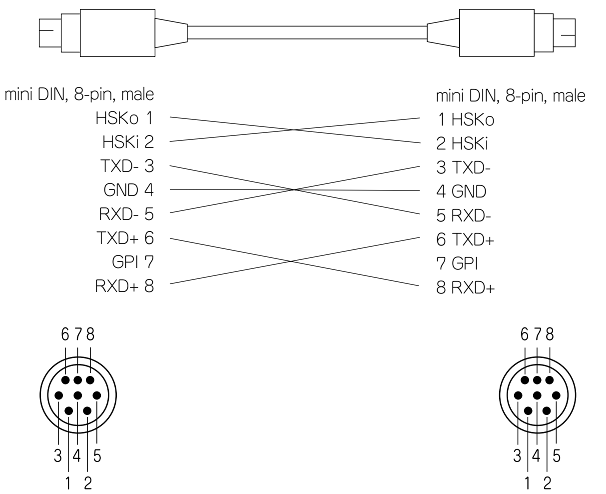
IBM PC/AT シリーズ接続用ケーブル

■ mini DIN, 8-pin, male　　■ D-sub, 9-pin, male



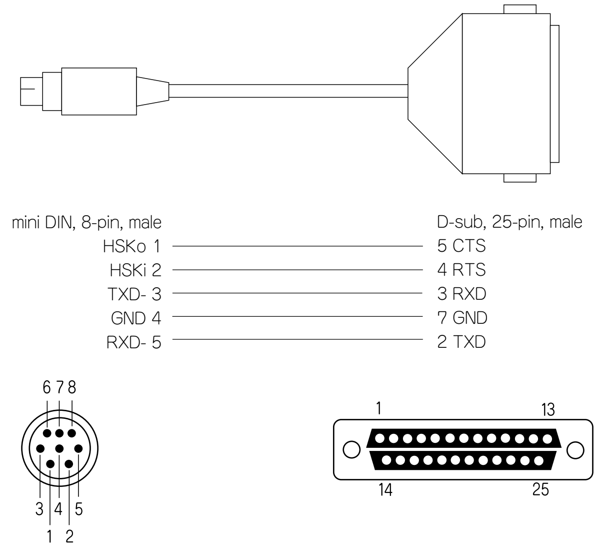
Apple Macintosh シリーズ接続用ケーブル

■ mini DIN, 8-pin, male　　■ mini DIN, 8-pin, male



NEC PC9800 シリーズ接続用ケーブル

■ mini DIN, 8-pin, male　　■ D-sub, 25-pin, male



2）主な仕様

■ 鍵　盤	88鍵/アドバンスト・ハンマー・アクションⅢ
■ 同時発音数	最大64音
■ 音色数	40音色
■ 効果	コーラス、リバーブ（3種類）、イコライザー（6種類）
■ 音律	平均律（2種類）、純正律（長調/短調）、ピタゴラス音律、中全音律、
	ヴェルクマイスター第Ⅲ法、キルンベルガー第Ⅲ法
■ その他の機能	マスターボリューム、低音ボリューム、デュアル、音色デモ（12曲）、Pfunピアノ曲（10曲）、
	コンサートマジック（30曲）、タッチカーブセレクト（6種類）、トランスポーズ、ブリリアンス、
	チューニング、ボイシング、ペダルエフェクト、メモリーバックアップ、
	スピーカーON/OFFスイッチ
■ レコーダー	4ソング×2トラック、総記録容量　約10,000音
■ リズム/メトロノーム	1、2/4、3/4、4/4、6/8拍子、4ビート（2種類）、8ビート（6種類）
■ ペダル	ダンパー，（ソフト：オプションの2本ペダル接続時）
■ 外部端子	ヘッドホン（2系統）、ペダル、MIDI（IN、OUT）、コンピュータI/F接続端子、
	LINE OUT（L/MONO、R）、LINE IN（ステレオミニ）
■ 出　力	本体のみ：10W×2、スタンドセットアップ時：27W（7W×2＋13W）
■ スピーカー	（12cm×8cm）×2、（5cmツィーター）×2、13cmウーハー
■ 定格電圧	AC100V、50/60Hz
■ 消費電力	本体のみ：32W、スタンドセットアップ時：50W
■ 寸　法	本体のみ（W×D×H）： 137.4×32.4×13.8（cm）
	スタンドセットアップ時（W×D×H）：137.4×39.9×76.4（cm）譜面台除く
■ 重　量	本体のみ：20.5Kg
	スタンドセットアップ時：34.6Kg

3）別売品のご紹介

◆ ヘッドホンSH-2

◆ ヘッドホンSH-5

◆ 2本ペダルF-2r

ダンパーペダルとソフトペダルで、よりピアノらしい演奏を可能にします。

◆ イスWB-6

◆ ダストカバーKDC-2

◆ ワイド譜面立WMR-1

◆ Pfun（ピーファン）ピアノ曲集

曲データ付き楽譜、コンピュータを使ってes2に追加することによって、Pfunピアノ曲として楽しむことができます。

●仕様および外観は、改良のため予告なく変更させていただく場合があります。

●お問い合わせ先：

株式会社 河合楽器製作所
電子楽器事業本部
TEL. 053(457)1277
FAX. 053(457)1279

付録

4）MIDIインプリメンテーションチャート

◇ KAWAI ［Model es2］ MIDI IMPLEMENTATION CHART

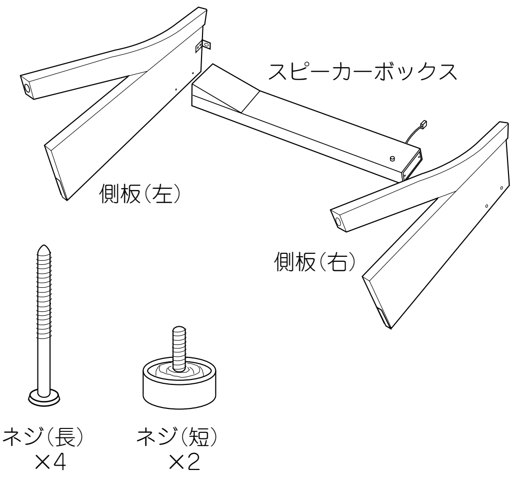
Date : APRIL, 2002
Version : 1. 0

ファンクション		送　信	受　信	備　考
ベーシック チャンネル	電源ON時 設定可能	1 1〜16	1 1〜16	
モード	電源ON時 メッセージ 代用	モード3 × *******	モード1 モード1, 3 * ×	オムニ･オン、チャンネル1 *オムニ･オフ、チャンネル1〜16に設定可能
ノート ナンバー	音域	9〜120 ** *******	0〜127 0〜113	**トランスポーズを含む
ベロシティ	ノート･オン ノート･オフ	○ 9nH v=1〜127 × 8nH v=0	○ ×	
アフター タッチ	キー別 チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチ･ベンド		×	×	
コントロール チェンジ	0, 32 7 10 11 64 67	○ × × × ○ ○ *2	○ ○ ○ ○ ○ ○	バンクセレクト *1 ボリューム パンポット エクスプレッション ダンパーペダル ソフトペダル
プログラムチェンジ 設定可能範囲		○	○	*1
エクスクルーシブ		○	○	
コモン	ソングポジション ソングセレクト チューン	× × ×	× × ×	
リアル タイム	クロック コマンド	× ×	× ×	
その他	ローカルON／OFF オールノートオフ アクティブセンシング リセット	× × ○ ×	○ ○ ○ ×	
備　考		*1　プログラムチェンジ対応表参照 *2　F-2r（オプションの2本ペダル）接続時		

モード 1 ：オムニオン、ポリ　　モード 2 ：オムニオン、モノ　　○: あり
モード 3 ：オムニオフ、ポリ　　モード 4 ：オムニオフ、モノ　　×: なし

5）es2を組み立てる

■パーツ（同梱品）



1 スタンドを組み立てる

4本のネジ（長）で、左右の側板をスピーカーボックスの両側に固定します。
側板は左右の区別がありますので、組み合わせに注意してください。

2 次の手順で本体を載せて固定する

① 本体をスタンドの少し後ろに静かに載せます。
② 本体前部を少し持ち上げながら前にスライドさせ、スタンドのピンを腕木下面の穴へはめこみます。
③ 2本のネジ（短）でしっかり固定します。

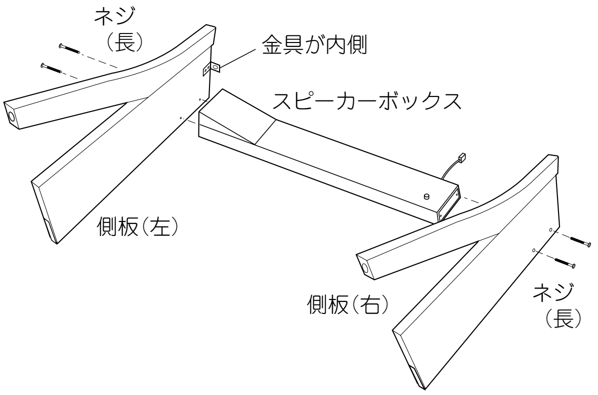
> ⚠ 注意
> **本体とスタンドをネジで固定するまでは不安定ですので、本体が落下しないように十分に注意してください。**
> **また、ご使用時は必ずネジで固定してください。**

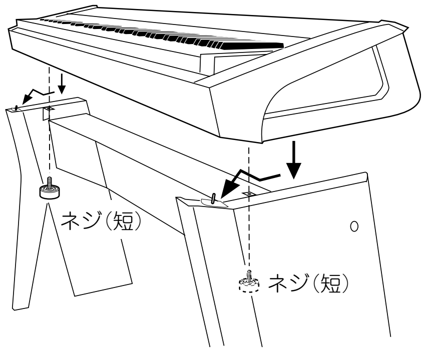
3 スピーカーコードを接続する

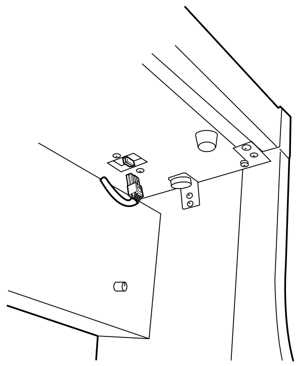
スピーカーボックスから出ているスピーカーコードのコネクタを、本体の端子に差し込みます。

> ⚠ 注意
> **スピーカーコードは、電源が入っていないことを確かめてから接続してください。**

【注意】
- ◆ 安全に組み立てていただくため、組み立てる前に必ず最後まで本説明をお読みください。
- ◆ パーツがすべてそろっていることを確認してから組み立ててください。
- ◆ 組み立ては2人以上で行ってください。
- ◆ 床やスタンドを傷つけないように注意して組み立ててください。
- ◆ ネジを締める際、ネジ山、ネジ頭をつぶさないよう気を付けてください。
  電動ドライバー使用の場合、ネジ山、ネジ頭をつぶす恐れがありますので、特にご注意ください。
- ◆ 組み立てる際は、十分な注意と配慮をお願いいたします。







KAWAI

株式会社 河合楽器製作所
電 子 楽 器 事 業 本 部
〒430-8665　静岡県浜松市寺島町200番地
TEL. 053(457)1277 ／ FAX. 053(457)1279
http://www.kawai.co.jp/

KPSZ-0026
0204S - Printed in Japan